



学校法人
日本赤十字学園
Japanese Red Cross Academy

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

ANNUAL REPORT

学校法人日本赤十字学園
令和5年度事業活動のご報告





人道の理念に基づく 「赤十字看護」の 実践者を育てる

学校法人日本赤十字学園 理事長 富田博樹

日本赤十字社による看護職養成の歴史は130年余を数えますが、学校法人日本赤十字学園は、その高等教育部門として昭和29年に創立されました。現在では、全国に6看護大学7看護学部と6大学院、1短期大学を擁する他に類をみない看護福祉系の学園に発展し、この間、皆さまのご支援のもとに、多くの卒業生を輩出し、わが国の医療・看護・教育分野の発展に大きく寄与してきたものと自負いたしております。

創立12年目を迎えた日本赤十字国際人道研究センターと創立3年目の日本赤十字看護大学附属災害救護研究所も特色ある活発な活動を展開するなど、教育・研究・実践に充実した学校法人として発展を続けております。

時代の要請であるICT・DXに対応した高度な教育環境の整備に加えて、今年度から3年を目途に、6大学7看護学部6大学院・1短期大学が、有機的に連携・情報共有できるための情報システムとソフト面の整備を中心とした基盤整備事業を始めております。

極度の行動制限を強いられた新型コロナウイルス感染症の流行もやっ和下火になり、感染症法上の位置づけが5類に変わり制限が緩和されたことに伴い、各大学では、地域と連携したプロジェクトの実施、公開講座やイベントの開催など、健康増進や防災啓発の推進に取り組んでおります。

一方、自然災害は今年度は7月の秋田県豪雨災害、1月の能登半島地震において甚大な被害をもたらしましたが、各大学の多くの教職員・学生・研究所のメンバー達が被災地で支援活動に当たったことは、赤十字の一員として誇らしく思うところです。

少子高齢化をはじめとする社会構造の変動のただ中で、看護・介護、福祉を取り巻く状況もまた大きく変化しており、医療・看護需要の大幅な増大に対応するため、看護職・介護職の担う役割は、病院や施設にとどまらず、地域の人々の健康と生活を支えるものとなっております。

このような変化の激しい困難な状況にあっても、社会の要請に応えるため、各大学はその使命に基づき、質の高い特色ある教育を実践しつつ、数多くの看護系大学の中から、学生、そのご家族、そして教員に選ばれる魅力ある大学であり続けなければなりません。

そのため、令和元年度から5年間の第三次中期計画を策定し、これを道標として、人道の理念に基づいた赤十字の教育研究を発展・充実させ、継続して看護・介護の分野における優れた人材を育成・輩出に取り組んでまいりました。

さらには、中央教育審議会の答申を踏まえ、全6大学が参画して、今後の当学園の将来像として、「学校法人日本赤十字学園の2040年に向けたグランドデザイン」を策定しました。

このなかで、『人道の理念に基づく「赤十字看護」の実践者を育てる』を主軸として、『赤十字学』の構築、さらには赤十字看護大学とそれらを支えていただいている全国の赤十字病院・支部等を併せた『赤十字教育共同体』として、皆さまと力を合わせて、赤十字看護のさらなる発展に取り組むことといたします。

今後も、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「人間のいのちと健康、 尊厳を守るために 力を尽くす人材を育てる」

現実を踏まえて理想を忘れず、今、手元にある苦痛を一つでも
取り除く努力によって理想に近づく。

これが赤十字の「人道」です。

赤十字の「人道」は、医療や福祉の分野における原点と言えます。

学校法人日本赤十字学園は、赤十字の人道の理念に基づき、

人間のいのちと健康、尊厳を守る担い手として

地域で、世界で活躍できる人材を育成します。



建学の 精神

CONTENTS

日本赤十字学園の
看護大学・大学院・短期大学 02

令和5年度の各大学のトピックス 04

日本赤十字学園第三次中期計画
の最終評価結果 06

2040年に向けたグランドデザイン
日本赤十字学園第四次中期計画 07

各大学・短期大学の動向

● 日本赤十字北海道看護大学 08

● 日本赤十字秋田看護大学
日本赤十字秋田短期大学 10

● 日本赤十字看護大学 12

● 日本赤十字豊田看護大学 14

● 日本赤十字広島看護大学 16

● 日本赤十字九州国際看護大学 18

事業の概要

学生の動向 20

教育活動の動向 25

研究活動の動向 26

奨学金の受給状況 28

日本赤十字国際人道研究センター
の動向 30

財務の概要

資金収支決算 32

事業活動収支決算 34

貸借対照表 36

財産目録 38

参考(過去5カ年の財務データ) 39

法人の概要

学園の沿革 42

学園の組織/教職員の概要 43

役員・評議員一覧
理事会・常務理事会・評議員会の
開催状況 44

各大学・短期大学の施設概要 45



得られる受験資格・取得資格

 看護師
  養護教諭
一種免許

 保健師
  介護
福祉士

 助産師

日本赤十字 広島看護大学

設置：平成12年（2000年）

～“人道”の心で
人とつながる看護を学ぶ～



	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科   	500	125
看護学研究科 看護学専攻 修士課程 	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2

日本赤十字 九州国際看護大学

設置：平成13年（2001年）

～ひとりを見る目、その目を世界へ～



	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科  	400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程 	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2

日本赤十字 豊田看護大学

設置：平成16年（2004年）

～地球に寄り添う看護～



	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科  	480	120
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2

[各大学における専門看護師教育課程]

学校名	教育課程
日本赤十字北海道看護大学(大学院)	慢性看護、精神看護
日本赤十字秋田看護大学(大学院)	がん看護、老年看護、精神看護
日本赤十字看護大学(大学院)	がん看護、小児看護、慢性看護、クリティカルケア看護、精神看護、老年看護、災害看護、在宅看護
日本赤十字豊田看護大学(大学院)	小児看護、精神看護
日本赤十字広島看護大学(大学院)	がん看護、小児看護、精神看護、災害看護
日本赤十字九州国際看護大学(大学院)	クリティカルケア看護、在宅看護、精神看護、老年看護

日本赤十字 北海道看護大学

設置：平成11年（1999年）



～手渡しの看護を～

		取容定員	入学定員
看護学部 看護学科		400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程		32	16
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程		6	2

日本赤十字 秋田看護大学

日本赤十字 秋田短期大学

設置：平成21年（2009年）



～「生きる」を支える人になる～

		取容定員	入学定員
看護学部 看護学科		400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程		24	12
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程		6	2
短期大学 介護福祉学科		60	30

日本赤十字 看護大学

設置：昭和61年（1986年）



～Vision for Humanity
-人道の実現に向けて～

		取容定員	入学定員
看護学部 看護学科		540	130
さいたま看護学部 看護学科		320	80
看護学研究科 看護学専攻 修士課程		64	32
看護学研究科 国際保健助産学専攻 修士課程		30	15
看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程		26	10



大宮キャンパス

[各大学における認定看護管理者コース]

学校名	教育課程
日本赤十字看護大学(大学院)	看護管理学領域
日本赤十字豊田看護大学(大学院)	看護管理学領域
日本赤十字広島看護大学(大学院)	教育・研究者コース



令和5年度の各大学のトピックス

日本赤十字 北海道看護大学

本学初の高大連携協定締結

令和5年9月、本学と北海道北見柏陽高等学校は高大連携に関する協定調印式を執り行い、高大連携協定を締結しました。

本協定は、大学及び高校が相互の信頼関係に基づき包括的な連携のもと、双方の教育及び研究機能についての交流・連携を通じて、高校生への視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学教育が求める学生像及び教育内容への理解を深め教育・研究に寄与することにより、双方の教育の活性化を図り、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的としています。

調印式終了後、第1回高大連携推進会議を開催し、協定に基づく各事項の具体化について話し合いました。その中の一つである『(3)大学の体験授業・公開講座への受講生の受入れ』について、令和5年11月から本学の講義を高校生が受講する公開講座を複数回実施し、たくさんの高校生に聴講いただき大変好評を得ました。



高大連携に関する協定調印式

日本赤十字 秋田看護大学 / 日本赤十字 秋田短期大学

秋田県豪雨災害に伴う災害ボランティア活動を実施

7月14日から16日にかけて、秋田県では記録的な大雨が降り続き、県内各地で河川の氾濫や内水氾濫により、甚大な浸水被害が発生しました。こうした中、本学では学内で有志を募り、7月19日から秋田市災害ボランティアセンターにて、地域の復旧に向けて災害ボランティア活動を開始しました。参加者は、ボランティアセンターの運営支援やニーズの聞き取り調査、また浸水被害に遭われた住居にて家財の運び出しや泥の片づけ、清掃などを行いました。9月20日までの間に、学生と教職員合わせて延べ166名が参加し、猛暑の中、地域の一日も早い復興のために汗を流しました。

また、これらの活動の他、高大連携協定を締結している聖霊女子短期大学附属高等学校（秋田市）の復旧作業に教職員を派遣し、さらには、秋田県五城目町からの要請により、本学教員が町の避難所の健康観察に、NPO法人災害看護支援機構と共に参加しました。



秋田県豪雨災害ボランティア活動

日本赤十字 看護大学

大学院看護学研究科
開設30周年記念ロゴマーク

大学院30周年記念事業の実施

平成5年4月に開設された本学大学院は令和5年度で30周年を迎え、各種記念事業を展開しました。本学の教育理念である「humanity」をベースに、「実践と研究をつなぐ～そして新たな看護の知へ～」をコンセプトとしたロゴマークを考案し、広報素材としてシールやバック、バッジ等の各種グッズに利用。また、特設ホームページを開設し、各界にて活躍中の多くの修了生から院生当時の思い出、現在の活躍の様子、母校やこれから大学院進学を考えている方々へのメッセージを募り、「おたよりリレー」として掲載しました。さらに、令和5年10月21日、日本赤十字看護大学大学院開設30周年記念事業・ホームカミングデー共催シンポジウムを開催し、約100名を超える方にご参加いただき、盛会となりました。1年を通して大学院の歴史を振り返り、未来に向けて発展する大学院を関係者の皆様と共に考える貴重な機会となりました。



開学20周年を迎えました

日本赤十字豊田看護大学は、多くの皆様からのご支援により開学20周年を迎えることができました。11月11日に開学20周年記念式典を開催し、記念講演会とシンポジウムを執り行いました。記念講演会では、名古屋大学名誉教授であり、あい・なごや強靱化共創センター長である福和伸夫氏に「温故知新と居安思危で大災害時の医療を持続する」という題で講演いただきました。日本の災害の歴史を紐解き、大災害時に医療を継続するためには、まだまだ備えが不十分であることや国民一人一人が災害に備えることの重要性について話していただきました。シンポジウムでは、医療・企業・大学のそれぞれの立場から災害への対応について意見交換を行いました。記念式典には、地域住民の方々も多くお越しになり、記念講演会、シンポジウムともに熱心に聴いていただきました。



開学20周年記念式典

「地域の笑顔とクロスする!元気プロジェクト」始動!

地域社会との共創拠点ヒューマンケアリングセンターでは、新たな事業「地域の笑顔とクロスする!元気プロジェクト」を立ち上げました。第1回は、教員の講義「冬こそ注意!? 隠れ脱水のキケン」の後に学生によるハンドマッサージと健康チェックを実施し、15名の地域の方が参加され大好評でした。

今後も、看護大学ならではの健康に関する様々なイベントを行い、地域における生涯学習拠点の役割を果たしていきます。

学生ボランティアによる
健康チェック



アロママッサージ部によるハンドマッサージ



対面での国際交流を再開しました!

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、国際交流協定校と対面での交流プログラムを再開しました。

4年次前期科目「赤十字活動Ⅱ」では、インドネシア国立アイルランガ大学から学生3名を短期留学生として受け入れ、「災害」をテーマに本学の学生と共に学修しました。

3年次前期科目「国際保健・看護Ⅱ」ではベトナムを訪問し、ナムディン看護大学の学生とともに「交通事故から命を守る」をテーマに、地域の中학생に対して交通外傷に関する授業と命を守るための行動について演習を行いました。また、地域のヘルスセンターや高齢者宅等を訪問し、地域が抱える健康課題について考え、健康チェックや体操等を実施しました。

3年次後期科目「国際保健・看護Ⅲ」では、各自の学習テーマをもとに、宗像市大島、スイスのラ・ソース大学で研修を行いました。

世界が直面した健康危機を乗り越え、学生たちは多くの経験と学びを得ることができました。



ベトナム研修

日本赤十字学園第三次中期計画の最終評価結果 (令和元年度～5年度)

学園の第三次中期計画(令和元年度～5年度)では、各大学の教育環境の維持・向上に資するための計画を策定し、特に以下の6項目を重点目標として掲げました。その目標ごとの自己点検評価結果は、次のとおりでした。

また、この5年間は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けましたが、各大学とも創意工夫、大学間連携等により教育の質の確保等に努めたことで、学園全体及び各大学の個別の計画の大部分を達成することができました。

1 質の高い教育を実践する大学

各大学は、GPA制度の導入・活用に加え、卒業認定・学位授与方針に基づき定めた教育課程編成・実施の方針に基づいて授業科目を適切に開設し、学生が「自ら学んで身につけたこと」を説明できる教育課程を体系的に編成しました。

2 情報通信技術(ICT)を活用した教育を実践する大学

各大学は、オンライン教育やシミュレーション教育を積極的に導入し、学内において臨床現場を疑似体験できる学習システムの構築等を行いました。また、大学間の連携による遠隔教育システムの活用について検討しました。

3 学園大学間の連携を活かした大学運営

大学間の連携のために、役員及び学長等による会議の場を数多く設け、各大学が有する教育、研究及び大学運営等の課題を共有し、共同で解決に向けた検討・取り組みを行いました。また、学園の2040年に向けたグランドデザインの策定をはじめ、将来の学園の運営においても一層の連携強化を図り、協働プロジェクトや赤十字の教育共同体として事業を推進することとしました。

4 地域社会との連携及び社会貢献へ積極的に取り組む大学

各大学は、コロナ禍においては、自治体と連携し、集団ワクチン接種会場の開設や保健所等への教員の派遣等積極的に実施したほか、地域社会の問題である少子高齢化、地域医療、介護福祉政策及び防災等の課題解決にも取り組みました。

5 健全な経営基盤に立つ成長する大学

各大学では、財政状況、入学者の確保や地域事情等を踏まえ、将来の経営の健全化に向けた検討を行い、人件費・管理的経費の抑制を図り、業務の合理化・効率化に取り組みました。

6 さいたま看護学部の開設及び安定運営

令和2年4月に日本赤十字看護大学の2つ目の学部としてさいたま看護学部を開設しました。開設当初から、入学者の確保をはじめ順調に大学運営及び教育を展開することができました。

日本赤十字学園の2040年に向けたグランドデザイン

日本赤十字学園は、2040年の社会構造を見据えた長期的かつ積極的なビジョンとして、「学校法人日本赤十字学園の2040年に向けたグランドデザイン」を12月に策定しました。

1 学園の協働プロジェクトとして目指す目標

- (1) 各大学の経営分析等による安定した組織運営
- (2) 赤十字の看護や救護等を探求する「赤十字学」の構築
- (3) 大学を越えた新たな研究の仕組みの構築と看護学研究の推進
- (4) 赤十字看護系大学間の国際交流の展開
- (5) 赤十字の特色を生かした入試制度の構築

2 各大学が教育共同体として目指す目標

- (1) 赤十字大学が積み上げてきた実践知を基盤とした教育の新たなシステムの構築
- (2) 赤十字病院との連携を推進することによる6大学の看護教育力のさらなる飛躍
- (3) DX推進による共同で利用可能な教育環境の整備
- (4) SDGsのゴールを目指した取り組みの推進

3 個々の大学が特色を出して目指す目標

各大学は、機関別認証評価の評価基準を踏まえつつ、赤十字看護大学としての独自色を出し強めていくため、共通の10の目標を設定しました。

日本赤十字学園第四次中期計画（令和6年度～10年度）

学園のグランドデザインの各目標の達成に向けて、令和6年度から5年間ごとの期間の中期計画を策定し、学園全体が一体となって実行していきます。また、第四次中期計画期間（令和6年度～10年度）は、各目標を達成するための基盤作りの重要な期間として位置付けています。

1 学園の協働プロジェクトとして目指す計画

- (1) 総合経営会議（仮称）を設置し経営状況の把握・改善を検討し、組織運営を行う。
- (2) 日本赤十字社創設からの看護・救護等活動の実績・経験を検証し、体系化する。
- (3) 赤十字6大学が協働し、研究を実践・教育に活用するための新たな仕組みを構築する。
- (4) 海外の赤十字看護系大学との交換留学・研修・共同研究等の交流を広く展開する。
- (5) 赤十字6看護大学連携併願選抜等入試制度を検証し、必要な改善等を行う。

2 各大学が教育共同体として目指す計画

- (1) 赤十字6大学が相互に利用できる教育システムの開発及び大学間の人材交流を行う。
- (2) 赤十字の教育共同体を通して基礎から切れ目のない生涯教育プログラムを開発する。
- (3) 学園全体の教育DX推進計画を策定し、可能な教育環境基盤を共同で整備する。
- (4) SDGsのゴールを目指した赤十字6大学共同の取り組みを推進する。

3 個々の大学が特色を出して目指す計画

各大学を取り巻く環境は少しずつ異なりますが、共通の計画を掲げました。

第三次中期計画の最終評価結果及びグランドデザイン、第四次中期計画の全文についてはこちらをご覧ください。



日本赤十字北海道看護大学

設置学部等 看護学部/大学院

電話 0157-66-3311

住所 北海道北見市曙町664-1



学長

安酸 史子

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが昨年5月8日から「5類」に引き下げられ、完全収束ではないものの、徐々にコロナ前の生活に戻つつあります。そうした中、今年は元旦に能登半島地震が発生し、本学で準備を進めていた厳冬期災害避難所演習を急遽中止し、担当教員は現地入りしました。厳しい自然の中にある日本赤十字北海道看護大学として、被災する可能性を念頭に、常日頃からの災害への心構えの必要性を改めて確認いたしました。

ところで私は昨年4月からの赴任で、すっかり北見が気に入り、2月には北見市観光大使を委嘱されました。澄んだ空気、オホーツクブルーの青空、エゾリスのかわいらしさ、雪が溶けると青葉が茂り始め、その後一斉に咲き誇る花々の美しさ、紅葉の見事さ、そして雪景色と氷点下の世界のすがすがしさ。雪の中、12月には中庭でイルミネーションの点灯式を行いました。学生たちにはこの贅沢で豊かな自然の中で看護の勉強だけでなく、学生時代ならではの楽しい経験もたくさんして、おおらかな看護専門職に育ってほしいと願っています。

赤十字救急法救急員養成講習

1年次後期の「赤十字救急法」では、一次救命処置や応急手当の知識や技術の習得とあわせて、将



教員から技術指導を受ける学生

来の医療従事者としての使命感や自信に加え、災害における行動力、リーダーシップを養います。

感染症への防止対策を講じたうえで、全面的な認定講習を実施し、基礎講習は99名、養成講習は95名が合格しました。

公開講座

「知ろう、学ぼう、看護の世界～看護の教育、仕事、活躍とキャリア形成まで～」をメインテーマに3回にわたり開催し、延べ172名が受講しました。第1回では具体的な事例等を交えながら大学での看護教育について、第2回では幅広い仕事内容と講師自身の経験を踏まえた看護師の仕事について、第3回では保健師や助産師、訪問看護やフライトナースのキャリア形成で大切なことについて、それぞれ講演しました。



多くの方にご参加いただき熱心に聴いていました

エコチル調査(子どもの健康と環境に関する全国調査)

平成23年より環境省は10万組の親子を対象にした「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」を実施しています。調査地区は全国の15地域で、本学は北見地区を担当しています。15地域のなかで看護学部が運営事務局を担っているのは本学のみで、現在、1,113名をフォローアップしています。現在までに全国のユニットから419件の論文が発表され、子どもの健康増進に役立つ成果として注目されています。

第14回エコチル調査北海道ユニット
北見地区運営協議会

運営懇話会

12月12日に北見医師会会長、北見市商工会議所専務理事、北見市社会福祉協議会会長、北海道高等学校長協会オホーツク支部長、日赤北海道支部事務局長、北見赤十字病院看護部長、日赤北見市地区有功会会長、北見市赤十字奉仕団委員長、大学後援会会長にご出席いただき、大学運営、教育、地域・社会貢献に関すること等について活発な意見交換がなされました。本学の教育方法等についてもご理解をいただきました。

オープンキャンパス

7月23日と9月24日の計2回実施しました。模擬授業・在学生対談やナースウェア試着体験など、普段ではなかなか経験できない貴重な体験をしていただきました。感染症禍において制限していた演習体験等も再開し、多くのご来場者にご満足いただけたようです。初の試みである「春のオープンキャンパス」を3月23日は北見市、3月26日は札幌市において開催しました。



ナースウェアを着て
フォトスポットで記念撮影



血圧測定にも多くの方が訪れました

イルミネーション点灯式

厳しい北国の冬を明るく照らすべく、教職員がイルミネーション装置を自作し、12月1日に本学の中庭で点灯式を行いました。

多くの学生と教職員が集まり、学長のあいさつとカウントダウンで点灯を開始しました。



氷点下のなかでも多くの学生や教職員が集まりました

トナカイやサンタクロースの電飾のほかに約10,000球の電飾が中庭を彩りました。

ホームカミングデー創設記念講演会

同窓会主催、第1回ホームカミングデーを開催しました。ホームカミングデーとは、同窓生をはじめ、在校生や教職員などを大学に招いて歓待するイベントです。

今回は、学部一期生2名の方に大学時代からこれまでの経緯を含めて、現在の活動についてご講演いただきました。

苦楽を共にした仲間たち、お世話になった先生方との再会に、会場は笑顔で包まれました。初代学長の松木光子先生からもメッセージをいただいております。



多くの同窓生が集まりました

大学祭

6月24日と25日の2日間に渡り、「Take a step forward (新たな一歩を踏み出す)」をテーマとして大学祭が開催されました。従来の縁日屋台、ヘルスチェック、看護体験、献血、模擬店に加え、今年度は近隣の北見工業大学との合同イベントも実施しました。学生と教職員が一丸となって取り組み、小規模ながらたくさんの皆様にご来場いただきました。



学生が焼く定番のやきとり



恒例の花火大会

広報活動

受験生・入学生のさらなる確保及び地域に根差した大学運営を目的として、地元での大型商業施設において広報活動を展開いたしました。フードコートに設置されたデジタルサイネージでの動画広告放映、併設された映画館全スクリーンでの動画広告上映です。広告をご覧になった多くの市民の方からお褒めの言葉をいただいています。



市内のショッピングモールにて放映

安酸学長、きたみ観光大使就任

本学のある北見市では雄大な自然環境、豊かな歴史、文化並びに地域ごとに特色のある名産品を広く紹介し、北見市のイメージアップを図るため「きたみ観光大使」制度があり、令和6年2月、安酸史子学長が任命されました。

任命式は「第25回2024北見厳冬の焼き肉まつり」にて行われました。氷点下5度を下回るなか、約2,000名の参加者が集い焼き肉を楽しみながら任命式が執り行われました。



北見の焼き肉といえばサガリやホルモン

「生きる」を支える人になる

日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学

設置学部等 (大学)看護学部/大学院 (短期大学)介護福祉学科

電話 018-829-4000 住所 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3



学長
原 玲子

本学は、赤十字の理念である人道に基づいた「生きるを支える人になる」を教育目的とし、赤十字に関する学修や活動を進めています。今年度は、コロナ禍にて中止していた、災害救護訓練、防災キャンプ等を実施し、また、日本赤十字学園の3大学(秋田・日看大・広島)による国際赤十字関連施設(イタリア・スイス)への海外研修も行いました。

7月には、秋田県豪雨災害があり、看護大学、短期大学学生34名、教職員12名が被災し、授業の時期をずらす等の対応をしました。また、学生と教職員合わせて延べ166名が、浸水被害に遭われた住居の家財の運び出しや泥の片付け、清掃等の災害ボランティア活動を行い、地域に元気を与えました。その活動に対して、包括的連携協定を締結している秋田市社会福祉協議会より、感謝状が贈呈されました。

また、令和4年度より秋田県の要請を受けて実施している「介護施設等防災リーダー養成事業」を継続して行いました。今年度は、大学における開催に加え、地域に足を運び研修会を開催しました。

私のキャリアプラン

対人援助のプロフェッショナルである看護・介護福祉を志す者として、自覚と向上心を高め、自らの目標を再認識する行事で、以前は「宣誓式」と呼んでいました。

学内での学びを経て、本格的な長期の施設実習に臨む看護学部3年生と介護福祉学科2年生が参加しました。



私のキャリアプラン

第14回赤十字・国際人道教育フォーラム

「ウクライナ人道危機における国際赤十字の活動」をテーマに、日本赤十字社国際部国際救援課主事の矢田結氏による講演が行われました。令和5年1月から2月までのウクライナでの矢田氏の活動が紹介され、「敵味方の区別なく、最も助けが必要な人を優先して救護するのが、赤十字が赤十字である理由である」というメッセージに、参加した学生や高大連携協定校の生徒は耳を傾けていました。



第14回赤十字・国際人道教育フォーラム

赤十字のお仕事体験イベント「赤十字キッズタウン」を4年ぶりに開催

本学を会場に、赤十字のお仕事体験イベント「赤十字キッズタウン」が4年ぶりに開催されました。本学と、日本赤十字社秋田県支部・秋田赤十字病院・秋田県赤十字血液センター・秋田赤十字乳児院による共催イベントです。参加した子どもたちは災害時の救護体験や献血業務、保育士、看護師などのお仕事体験に真剣に取り組んでいました。



赤十字のお仕事体験イベント「赤十字キッズタウン」を4年ぶりに開催

「赤十字みんなの防災キャンプ」を4年ぶりに宿泊形式で開催

避難所運営や災害時に必要な知識や技術を学ぶ1泊2日の「赤十字みんなの防災キャンプ」を本学にて実施し、50名の学生が参加しました。参加者は大規模災害の発生でライフラインが断たれた状況を想定し、避難所設営や炊き出し、災害支援シェルター設営など、様々なプログラムを体験しました。宿泊を伴うプログラムは4年ぶりとなり、学生は体育館やグラウンドに設営した簡易ベッドとテントを使用して災害時の宿泊を体験しました。

「赤十字みんなの防災キャンプ」を4年ぶりに宿泊形式で開催



「赤十字海外スタディーツアー」(赤十字国際演習)を4年ぶりに実施



日本赤十字看護大学及び日本赤十字広島看護大学との共催により、本学が展開する国際活動の一つですが、令和2年度以降はコロナ禍で開催が見送られていました。今年度は4年ぶりに実施され、本学から学生は7名が参加して、5泊8日でイタリア・スイスを訪問しました。赤十字国際委員会本部や国連事務所などの国際機関を訪れ、見学や講義などを通じて学びを深めてきました。

「赤十字海外スタディーツアー」(赤十字国際演習)を4年ぶりに実施

夏のオープンキャンパスを開催

今年度は規模を拡大して「夏のオープンキャンパス」を開催しました。また、特別企画「ドクターヘリ見学会」を実施し、県内外から多くの高校生・保護者の皆様にご参加いただきました。実習室での臨場感ある模擬演習や、先輩によるキャンパスツアー、先輩と話そうコーナーもとても好評でした。賑やかでアットホームな雰囲気の中での開催となりました。



夏のオープンキャンパスを開催

ハロウィン・パーティーを開催

10月31日から3日間にわたりハロウィンイベントが開催されました。コロナ禍においては、様々な制限から学生イベントを開催することができておりませんでした。本学学友会メンバーと看護学部4年生の有志が協力して、イベントの実現に至りました。ハロウィン仕様に装飾された学内で、ケーキバイキングやビンゴ大会、仮装フォトコンテストなどのイベントを通して学生間の交流を深める機会となりました。



ハロウィン・パーティーを開催



広尾キャンパス



大宮キャンパス

設置学部等 看護学部/さいたま看護学部/大学院

(広尾キャンパス) 電話 03-3409-0875 住所 東京都渋谷区広尾4-1-3

(大宮キャンパス) 電話 048-799-2747 住所 埼玉県さいたま市中央区上落合8-7-19



学長

守田 美奈子

今年度はさいたま看護学部の完成年度を迎え、両学部で4学年が揃った年となりました。本学では赤十字の理念に即した教育をさらに推進できるよう、数年前から将来構想の課題として学部、大学院の教育の在り方検討及びその方針に基づくカリキュラム検討を行ってきました。今年度は次年度からの学部新カリキュラムの実施に向けて、教育方法や実習施設の開拓、調整などを進めました。大学院においては修士課程、博士後期課程における新カリキュラムの検討を推進すると同時に、研究科開設30周年を迎えましたので年間を通して記念事業を展開しました。また、スイス・スウェーデンとの国際交流も再開し、海外研修や海外からの研究者の来訪を通して学生や教職員もグローバルな知見や刺激を受けることができましたと思います。

災害救護研究所は発足3年目を迎え、各部門の研究発表が活発に行われています。2学部1研究科を持つ大学として、今後もさらなる教育、研究の発展のための改革を進めると同時に、それを支える大学組織の安定化に向けて尽力していきたいと考えています。

さいたま看護学部完成年度記念事業の実施

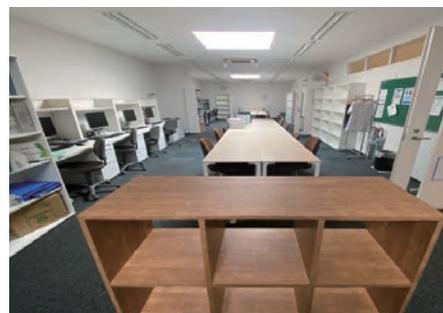
令和2年4月1日に開設されたさいたま看護学部は、今年度で完成年度を迎え、記念事業を実施いたしました。実習指導者懇談会や公開講座を実施し、3月28日には大宮キャンパス別館CoCoRoホールにて記念式典を開催いたしました。当日は日本赤十字社役職者をはじめ、大学関係者や退職教職員などを招待し、日本赤十字社副社長鈴木俊彦氏に基調講演を行っていただきました。



日本赤十字社副社長鈴木俊彦氏による基調講演

大学院生室リニューアルプロジェクト

大学院30周年記念事業の一環として大学院生室の一部をリニューアルし、学修・研究環境を整備いたしました。リニューアルに係る費用は



新しく生まれ変わった大学院生室

同窓会の助成や寄付金を活用させていただき、リニューアル計画を立案する際はヒアリングの機会を設けるなど、利用する大学院生の声を尊重し、フリーアドレス席や個別ブース、ミーティングスペースの設置など、より利用しやすい研究空間として生まれ変わりました。

職業実践力育成プログラム(BP)に認定(大学院)

看護学研究科修士課程看護学専攻専門看護師(CNS)コース、同専攻実践コース、及び看護学研究科修士課程国際保健助産学専攻実践コースは12月20日付で職業実践力育成プログラム(BP)として文部科学大臣に認定されました。今後社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを運用し、社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会を一層拡大させます。

文部科学省職業実践力育成プログラム(BP)ロゴマーク

Brush up Program
for professional

国際交流事業の展開

コロナ禍の影響により引き続き中止とされていた国際交流や交換留学について、今年度より順次再開し、スウェーデンのスウェーデン赤十字大学から3名、スイスのラ・ソース大学から2名の留学生を受け入れました。また、本学から両校へはそれぞれ3名の学生を派遣しました。スイスのラ・ソース大学との協定に基づく教員の人事交流も再開し、同大学への研修として2名の教員が派遣されました。



交換留学生との交流会の様子

成績優秀賞の表彰(さいたま看護学部)

さいたま看護学部が完成年度を迎え、初の卒業生が輩出されることから、学修意欲の向上に繋げることを目的として、GPAを基準とした申合せを作成し、成績優秀賞を設置いたしました。推薦基準の一つとして卒業時の累積GPAが上位5%に該当する者とし、今年度卒業式の際には3名の優秀な卒業生に対して表彰を実施しました。なお、成績優秀賞は看護学部でも昨年度から導入されており、今年度は8名を表彰しています。



成績優秀賞の表彰風景

学校法人日本赤十字学園理事長による特別講義

赤十字の特色ある教育として、学校法人日本赤十字学園理事長富田博樹氏より「日本赤十字社の過去・現在・未来、そして赤十字看護について」と題した特別講義を看護学部及びさいたま看護学部の上級学年を対象に実施しました。特別講義後、赤十字の看護や教育について考えたこと、感じたことをそれぞれで考え、まとめさせることにより、本学で学ぶことに対する意識付けを深める貴重な機会となりました。

学校法人日本赤十字学園理事長富田博樹氏による特別講義の様子



学園祭(クローア・ルージュ祭)及びキャロリングの開催



さいたま看護学部は6月3日、看護学部は10月21日に学外者の訪問制限のない形で学園祭を開催しました。いずれも学生が率先して計画・準備し、来場された地域住民や高校生の皆様と一緒に盛りあがった学園祭となりました。また、看護学部ではキャロリングも再開し、学生は創意工夫しつつ、日本赤十字社医療センター、同センター附属乳児院及び日本赤十字社総合福祉センターの患者様やお子様、入居者様方を楽ませてくださいました。

キャロリングに参加する学生の様子

日本赤十字豊田看護大学

設置学部等 看護学部／大学院

電話 0565-36-5111

住所 愛知県豊田市白山町七曲12-33



学長

鎌倉 やよい

本学は、令和5年度に開学20周年を迎えました。記念事業として5月に新日本フィルハーモニー交響楽団の吉鶴洋一氏を迎えてのコンサート開催に始まり、7月には理事長による講演会、10月には東海メディカルプロダクツ会長の筒井宣政様を迎えての講演会を開催し、11月には記念式典を行い、福和伸夫先生(あいち・なごや強靱化共創センター長)による「温故知新と居安思危で大災害時の医療を持続する」と題する記念講演会と防災・減災シンポジウムを開催しました。そして、開学20周年記念誌を発行して事業を終えました。

事業の一環として、多くのご支援を受けて講堂にLEDビジョンを設置することができました。鮮明な画像は、今後の6大学の協働、国際交流、地域貢献にも活躍すると思います。赤十字学の立ち上げとして、本学が保管する赤十字史料のデジタルアーカイブ化の検討も始まりました。開学20周年を機会として、より質の高い教育・研究を通し、さらなる大学の発展に尽力して参ります。

学長最終講話

2月22日に鎌倉やよい学長の最終講話が行われました。「看護教育温故知新」と題して1時間の講話が行われ、会場には約150名の看護学部生、大学院生、教職員が集まり熱心に講話を聴いていました。講話後は茶話会が催され、学生・教職員が学長を囲んで感謝の意を表するとともに、思い出話を花を咲かせました。



講話後、学生に囲まれる鎌倉学長

対面での国際交流活動の再開

本学では平成29年度より国際交流の一環としてタイ赤十字看護大学とMOUを締結し、学生の受け入れを行っています。今年度、本学初のタイ赤十字看護大学への学生派遣(3名)を行いました。また、新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた学生受け入れ(3名)を再開しました。

同じく中止していた英国語学研修を海外語学研修と改め、行先をオーストラリアへ変更し、本学学生23名を派遣しました。



タイでの歓迎会

e-ポートフォリオの構築

現在本学が導入している学務システムを拡張して、e-ポートフォリオを構築しました。成績や学業を通して身に着けた技術をポートフォリオの形で記録することで、学生は自らの学びの達成状況を客観的に整理・点検することができます。e-ポートフォリオを通して、学生が自らの力を把握した上で新たな学びを発見し、直面している課題を解決することが可能になり、学修環境の向上が期待されます。

高大連携の推進としての入学前教育の改善

入学後の学習がスムーズに進められるよう、入学前教育課題を全面変更し、運用を開始しました。特に理数系科目については、基礎的な数学・生物・化学・物理の各項目を厳選するとともに、「看護学」をイメージできるよう出題形式を工夫しています。

また、令和6年度から英語のプレイスメントテストに「GTEC」を利用し、英語でのコミュニケーション能力や実践力を測定するとともに、大学での学びの動機づけにしていきます。



入学前課題(表紙)

保護者サービスの強化

保護者への本学の教育に対する理解促進のため、「保護者と教員の交流会」を実施しました。大学からの近況報告とチューター教員との個別面談を行い、保護者からは「大学での様子が分かり安心した」と好評を得ています。

また、学生支援における保護者との連携強化のため、新たに保護者ポータルサイトを構築しました。保護者がWeb上で成績、時間割及びお知らせを確認することができるようになります。



保護者と教員の交流会

赤十字史料室

本学は、博物館明治村所蔵の赤十字史料を研究目的のために借入れ、史料室で保管しています。今年度の史料の利用は18件ありました。12月にゲートタワー26献血ルームで「史料から見る赤十字看護師(婦)養成の歴史」の展示を開催し、史料文書や記録写真をパネルにして、献血者に広く赤十字看護師(婦)養成の歴史を紹介しました。また、史料のデジタルアーカイブ化の検討も始めました。



赤十字史料

公開講座

地域住民の健康増進のため、健康意識の醸成を図ることを目的とし、計2回の公開講座を開催しました。第1回は、本学成人看護学教員による『「あじわう」は健康のもと』と題し、味覚と健康の関係について様々な味の体験と講義を行いました。第2回は、本学公衆衛生看護学教員による『居酒屋健康管理室』と題し、居酒屋の定番メニューを基に健康食の考察を行いました。計37名(第1回:25名、第2回:12名)が受講しました。



「あじわう」は健康のもと

老年看護専攻教育課程の認定

3月1日、一般社団法人日本看護系大学協議会より本学の看護学研究科看護学専攻地域共生看護学老年・在宅看護学領域専門看護師コースが老年看護の高度実践看護師教育課程として認定されました。これにより令和6年度4月から老年看護の専門看護師コースを新規開設します。



高度実践看護師教育課程認定証

“人道”の心で人とつながる看護を学ぶ

日本赤十字広島看護大学

設置学部等 看護学部／大学院

電話 0829-20-2800

住所 広島県廿日市市阿品台東1-2



学長

田村 由美

令和5年度は、総じてCOVID-19後の未来に向かう助走の年でした。第3次中期計画の総括、第4次中期計画の策定と令和6年度事業計画の策定を、学園の2040グランドデザインの策定と並行して行いました。現状分析と評価、環境変化の確認と将来予測、ビジョンの策定、大きな取り組みの柱建て・細目となる事業項目の整理とプロセスを踏んで行いました。また、本学の「FDマップを用いた教員の資質・能力の向上」の取り組みが、昨年度受審した大学基準協会の「大学の長所・特色検索」システムに記載され、次年度予定している日本看護学教育評価機構（JABNE）受審準備を進める弾みとなりました。広報活動のFACTBOOK作成は、次年度のリブランディング事業につながります。ラ・ソース大学への学生派遣の再開やフィリピン大学とのMOU更新など、国際交流への新たな展開に入っていきます。HCCは、新たに「地域の笑顔とクロスする！元気プロジェクト」を立ち上げます。学生ボランティア活動と並行して活発な地域・社会貢献活動になります。

厳しい状況は続きますが、6大学連携強化を進めてこの荒波をONE TEAMの船で乗り越えていく決意を新たにしました。

大学祭「第25回 Eternal Heart祭」を開催しました

COVID-19のため学内限定であった大学祭を、3年ぶりに一般の方も招いて開催しました。地域の方や高校生をゲストに迎えたステージ企画や学生によるパフォーマンス、キャンドルサービス、さらには屋台やキッチンカーなど、様々な催しをみんなで楽しみました。

また、学内者向けにTシャツを作成し、その販売収益の一部を日本赤十字社に寄付しました。社会貢献について考え地域とのつながりを深める機会となる大学祭となりました。



学生によるパフォーマンス

ヨーロッパでの研修を再開しました（国際看護学演習I）



アンリー・デュナン像前での記念撮影

COVID-19のパンデミックやウクライナ情勢などの国際情勢を受け休止していた海外研修を4年ぶりに再開し、8月19日から26日まで学生2名がイタリアとスイスにある国際赤十字の関連施設や国際機関を訪問しました。

研修を通じて国際救護組織の役割や活動内容を理解し、国際活動における活動理念・方法について自己の考えを深め、国際社会で看護職に何が求められるか考察することができました。この経験を学生の間で共有し、みんなで学修を深めています。

フィリピン大学看護学部と国際交流協定に関する覚書（MOU）を再締結しました

2月に田村由美学長がフィリピン大学を訪問し、フィリピン大学看護学部と本学との間で取り交わしている国際交流協定に関する覚書の期間延長の再締結を行いました。

同大学からはMichael L. Tee理事長が出席され、田村学長と調印式を行いました。今後、同大学との交流を拡充するとともに、海外の他看護系大学との交流も進めていきます。



フィリピン大学とのMOU再調印の様子

フィリピンでの演習を再開しました (国際看護学演習Ⅱ)

COVID-19のため休止していた演習を再開し、学生はフィリピン大学の地域保健演習に参加して、ライフラインが無い村での乳幼児健診、妊産婦健診、予防接種、保健センターでの健診事業、家庭訪問への同行などを行いました。現地の保健医療事情やプライマリヘルスケアの実際を学ぶとともに、IPE (Interprofessional Education) を通じて多職種連携が織りなすエンパワーメントを体感しその重要性を学びました。



保健センターで血圧を測る学生



設備が更新された講堂

講堂の視聴覚設備をリニューアルしました

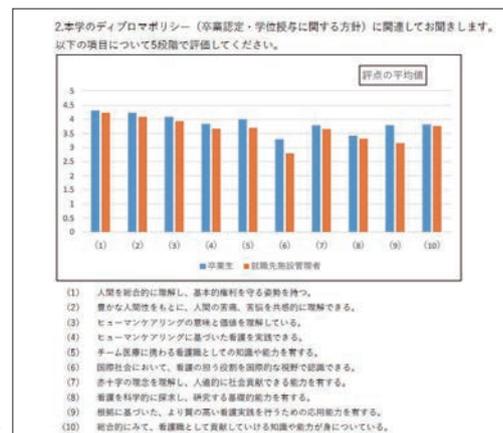
本学では、老朽化と機器の進化への対応として学内の視聴覚設備を順次更新しています。令和5年度は講堂「ソフィアホール」を対象に、11000ルーメンのプロジェクター整備と130インチの大型スクリーンによる映像機能の向上、スピーカーの増設による音響機能の向上を実現しました。

さらに、操作系統を舞台袖の1か所に集中し、一人でも舞台上の映像・音響・照明をすべて操作できるよう工夫しました。式典のほか、特別講義や講演に活用していきます。

「まなびの活用度調査」を始めました

教育の改善に向けた基礎データを得ることを目的に、今までの卒業生に対するアンケートを見直し、卒業生と所属施設を対象に「まなびの活用度調査」を開始しました。調査項目は、ディプロマポリシーに掲げる能力・看護実践能力・社会人基礎力・学士力の自己評価と職場の上司による他者評価を、卒業後1年の時点で尋ねました。

速報段階では概ね良好な内容でしたが、今後、詳細な分析を行い学内の教育の質保証活動に活用していきます。



まなびの活用度調査



ブックハンティングの様子

ブックハンティングを実施しています

図書館では、大学関係者や一般の方から書籍を無償で譲っていただき、業者の買取金を「日赤広島看護大 ブックケアプロジェクト」への寄付金として、大学の図書館の充実を活かしています。

この寄付金で、学生の代表が書店で図書館に入れる本を選ぶ「ブックハンティング」を開催していますが、令和5年度は初めて年2回行うことができ、学生5名が参加、110冊余りの本を購入することができました。

FACTBOOKを作成しました

本学の基礎的なデータを集計し、FACTBOOKを作成しました。内容は、本学のアセスメントポリシーに沿ったもので、標準修業年限卒業生数・率、国家試験合格者数・率、就職・進学者数・率、国際救援・開発協力看護履修プログラム修了者数、退学・休学者数・率など多岐にわたっています。本学のホームページで公開しており、社会に対して説明責任を果たすとともに、本学の魅力や特徴を数値で明確に伝えることができます。



FACTBOOKのホームページでの掲載



ひとりを看る目、その目を世界へ

日本赤十字九州国際看護大学

設置学部等 看護学部／大学院

電話 0940-35-7001

住所 福岡県宗像市アスティ1-1



学長

小松 浩子

赤十字の「人道」の理念のもと、自校教育ならびに社会連携活動に注力し、人々の命と尊厳を守るための学びを深めました。宗像市との連携・協働による「大学生とつくる元気なまちプロジェクト」では、第16回「ふくおか地域づくり活動賞」を受賞し、社会に開かれた大学として更なる歩みを進めました。自校教育として取り組んでいる「学長杯」は3回を重ね、赤十字学園富田理事長、赤十字支部・病院の皆様にご参加いただき、赤十字看護の実践力を競い、絆を深める学びとなりました。「ひとりを看る目、その目を世界へ」をモットーに、質の高い教育を探究するため、DX推進計画のもと、文科省の補助金を獲得し、電子教科書やMRなど多様な教育方法の活用を進め、学生自らが成長を実感できる教育・研究環境の改革を推進しました。危機の時代に生きる学生には、多様な人々との協働による学習が不可欠であり、学生ボランティア募金活動、避難所設置訓練、JICAプロジェクトなどへの主体的な参画を拡げることができました。未来を共創する大学として更なる歩みを進めます。

DX推進に基づき、学内基幹ネットワーク環境が高速通信10Gbpsに対応

本学は、令和7年度に全学でデジタル教科書の導入を予定しており、授業で使用する情報機器の学内ネットワーク環境は、最重要課題でした。DX推進計画により、光ケーブルやLANケーブルの10Gbps対応は基より、今年度、文科省の補助金を受け、基幹ネットワーク機器においても、すべて10Gbps対応を実現しました。

これにより、今年度、本学のICTを利活用するための学内ネットワーク環境整備が整いました。



デジタル教科書を活用した授業風景



学生主体の義援金募金活動

1月1日に発生した令和6年能登半島地震に対し、街頭義援金募金活動を実施しました。今回の地震で、全国の日本赤十字社各都道府県支部が救護班の派遣や救援物資の配布等を行っており、赤十字の学生として、苦しんでいる人を救いたいという思いのもと、災害看護を学ぶサークルが主体となり、約60名の学生が活動に参加しました。学内募金活動も行い、教職員一同、被災者の支援の一助となるよう学生の活動を応援しました。

博多駅前での募金活動

JICA課題別研修の実施

世界12か国から13名の研修員を受け入れ、JICA研修を実施しました。

研修の目的は「地域保健向上のための保健人材強化」で、各国の中央・地方政府の保健担当局、保健人材教育機関の方々に参加しました。

2月15日から3月1日までの2週間、日本の医療保健制度や看護人材育成確保等様々な研修を学内外で実施しました。また、講義のほか、福岡県内の施設見学や、日本文化体験等を通して、学生との交流も行いました。

大学講堂(オーヴァルホール)で開講式を実施



第3回学長杯

今年度で3回目となる学長杯を9月20日に開催しました。過去最多となる10チーム49名の学生が参加し、看護技術や知識、ジェネリックスキルを活用しながら挑戦していました。

また今年度は、福岡県支部、福岡赤十字病院、嘉麻赤十字病院、今津赤十字病院から職員や看護師の方々を派遣いただき、よりリアリティのある状況設定を作ることができました。さらに日本赤十字学園からは富田博樹理事長にも見学・体験いただきました。



災害ブースでは災害対策本部を開設し救護活動中



サテライトオフィスの運用

重点事業の柱としていた、サテライトオフィスが今年度から運用を開始し、地域連携・教育センター主催による公開講座を2回実施しました。1月に実施した、「災害とフォレンジック看護」をテーマにした講座には、福岡赤十字病院の看護師の方が22名、Webでの参加は6施設の方々の参加のもとハイブリッド形式で開催しました。

公開講座のほか、11月には大学院入学説明会を行うなど、効果的に運用を進めています。

福岡県支部内にあるサテライトオフィスを活用した講義

第16回「ふくおか地域づくり活動賞」受賞

宗像市地島で防災・減災意識の向上を課題に取り組む学生グループが、第16回「ふくおか地域づくり活動賞」に表彰されました。

このグループは、宗像市大学生による「まちの課題解決プロジェクト」の採択を受け、令和3年度から地島をフィールドとして島民の世帯状況などの実地調査を行ってきました。地域・行政と連携した継続的な活動が、地域課題の解決へ寄与し、今後の発展が見込まれると評価され、今回の表彰に至りました。



島民に向けた防災教室を開催



授賞式の様子



学生と教職員が力を合わせてリフトテントを設営

避難所(リフトテント)設置訓練

3月7日に避難所設置体験を開催しました。震度5弱の地震が生じ、近隣の住民のための避難所設営という設定で、学内にリフトテントと簡易トイレの設営、非常食の準備を行いました。

教職員35名、学生4名は、チーム毎にリーダーの指揮のもと実際に倉庫から物品の運搬・設営・片付けまでを行いました。リフトテントの設営は平成27年以来的のことで、細かな手順に戸惑うこともあり、普段からの訓練の必要性を感じました。

学生の動向

1 入学者の状況 (令和5年5月1日現在)

令和5年度の学部入学人数は、6大学7学部で合わせて800人でした。また、大学院は修士課程82人及び博士課程12人、短期大学は15人がそれぞれ入学しました。

(単位:人)

学校名	看護学部			大学院看護学研究科				
	入学定員	志願者	入学者	課程	専攻	入学定員	志願者	入学者
日本赤十字 北海道看護大学	100	221	98	修士	看護学	16	11	7
				博士	共同看護学 ※1	2	2	1
日本赤十字 秋田看護大学	100	239	104	修士	看護学	12	10	9
				博士	共同看護学 ※1	2	0	0
日本赤十字看護大学	130	1,206	134	修士	看護学	32	44	29
					国際保健助産学	15	48	15
				博士	看護学 ※1	10	8	7
					共同災害看護学 ※2	—	—	—
さいたま 看護学部	80	628	90	博士	看護学 ※1	10	8	7
					共同災害看護学 ※2	—	—	—
日本赤十字 豊田看護大学	120	530	132	修士	看護学	10	4	4
				博士	共同看護学 ※1	2	1	1
日本赤十字 広島看護大学	125	441	130	修士	看護学	10	4	4
				博士	共同看護学 ※1	2	1	1
日本赤十字 九州国際看護大学	100	297	112	修士	看護学	10	17	14
				博士	共同看護学 ※1	2	3	2
合計	755	3,562	800	修士	看護学	90	90	67
					国際保健助産学	15	48	15
					合計	105	138	82
				博士	共同看護学 ※1	10	7	5
					看護学 ※1	10	8	7
					共同災害看護学 ※2	—	—	—
					合計	20	15	12
(参考) 3年次編入 日本赤十字看護大学看護学部								
10	29	12						

博士課程のうち、※1は博士後期課程、※2は5年一貫制博士課程

(単位:人)

学校名	介護福祉学科		
	入学定員	志願者	入学者
日本赤十字 秋田短期大学	30	16	15

2 在学生の状況 (令和5年5月1日現在)

令和5年度の在学生数については、学部学生は6大学7学部で合わせて3,266人、大学院生は修士課程202人及び博士課程95人でした。また、短期大学では37人が在学していました。

(単位:人)

学 校 名	看護学部		大学院看護学研究科			
	収容定員	在学生	課程	専 攻	収容定員	在学生
日本赤十字 北海道看護大学	400	410	修士	看護学	32	20
			博士	共同看護学 ※1	6	12
日本赤十字 秋田看護大学	400	428	修士	看護学	24	13
			博士	共同看護学 ※1	6	5
日本赤十字看護大学			修士	看護学	64	72
看護学部	540	585		国際保健助産学	30	32
さいたま 看護学部	320	354	博士	看護学	26	43
				共同災害看護学 ※2	4	6
日本赤十字 豊田看護大学	480	530	修士	看護学	20	17
			博士	共同看護学 ※1	6	12
日本赤十字 広島看護大学	500	524	修士	看護学	20	22
			博士	共同看護学 ※1	6	8
日本赤十字 九州国際看護大学	400	435	修士	看護学	20	26
			博士	共同看護学 ※1	6	9
合 計	3,040	3,266	修士	看護学	180	170
				国際保健助産学	30	32
				合 計	210	202
			博士	共同看護学 ※1	30	46
				看護学	26	43
				共同災害看護学 ※2	4	6
				合 計	60	95

博士課程のうち、※1は博士後期課程、※2は5年一貫制博士課程

(単位:人)

学 校 名	介護福祉学科	
	収容定員	在学生
日本赤十字 秋田短期大学	60	37

3 卒業生の進路状況 (令和6年4月1日現在)

令和5年度の学部の卒業生は770人であり、そのうち408人(53.0%)が赤十字病院に就職しました。また、修士課程の修了者72人のうち25人(34.7%)及び博士課程の修了者13人のうち4人(30.8%)が、赤十字病院・赤十字関係教育機関等に就職しました。なお、学部卒業生のうち261人(33.9%)が、赤十字奨学金を受給しています。

【看護学部】

(単位:人)

学校名	卒業生数	就 職 者					進学者 (専門学校を含む)	就職・進学 以外の 進路者	進路 未定者
		合 計	内 訳						
			赤十字病院 (%は対卒業生数)	赤十字以外 の病院	その他 (行政等)				
日本赤十字北海道看護大学	91	84	64	70.3%	18	2	7	0	0
(うち赤十字奨学生)	62	59	58		1	0	3	0	0
日本赤十字秋田看護大学	108	98	40	37.0	54	4	2	0	8
(うち赤十字奨学生)	29	27	27		0	0	0	0	2
日本赤十字看護大学看護学部	149	137	79	53.0	54	4	7	5	0
(うち赤十字奨学生)	43	42	40		2	0	1	0	0
日本赤十字看護大学さいたま看護学部	86	81	52	60.5	27	2	4	0	1
(うち赤十字奨学生)	22	22	22		0	0	0	0	0
日本赤十字豊田看護大学	115	109	65	56.5	42	2	3	0	3
(うち赤十字奨学生)	51	48	46		2	0	1	0	2
日本赤十字広島看護大学	128	119	69	53.9	46	4	4	0	5
(うち赤十字奨学生)	34	33	33		0	0	0	0	1
日本赤十字九州国際看護大学	93	86	39	41.9	43	4	5	0	2
(うち赤十字奨学生)	20	19	17		2	0	1	0	0
合 計	770	714	408	53.0	284	22	32	5	19
うち赤十字奨学生合計	261	250	243		7	0	6	0	5

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職者」～「進路未定者」の合計と「卒業生数」とは一致しない場合がある。

【短期大学 介護福祉学科】

(単位:人)

学校名	卒業生数	就 職 者					進学者	進路 未定者
		合 計	内 訳					
			赤十字 関係施設	赤十字 以外の 医療施設	赤十字 以外の 福祉施設	その他 (行政等)		
日本赤十字秋田短期大学	20	17	0	2	15	0	1	2

※卒業生には赤十字奨学生はいない。

【大学院】

(修士課程)

(単位:人)

学 校 名	修了者数	就 職 者						進学者		進路 未定者 (就職・進学 以外の進路 含む)
		合 計	内 訳				赤十字 関係	赤十字 以外		
			医療機関		その他(行政・教育施設等)					
			赤十字病院 (%は対修了者数)	赤十字以外 の病院	赤十字 関係	赤十字 以外				
日本赤十字北海道看護大学	10	10	4	40.0%	4	1	1	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	3	3	3	/	0	0	0	0	0	0
日本赤十字秋田看護大学	2	2	0	0.0	0	2	0	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0
日本赤十字看護大学	42	39	14	33.3	21	2	2	1	0	2
(うち赤十字奨学生)	2	2	2	/	0	0	0	0	0	0
日本赤十字豊田看護大学	3	3	0	0.0	2	1	0	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0
日本赤十字広島看護大学	6	6	1	16.7	5	0	0	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0
日本赤十字九州国際看護大学	9	9	0	0.0	9	0	0	0	0	0
(うち赤十字奨学生)	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0
合 計	72	69	19	26.4	41	6	3	1	0	2
うち赤十字奨学生合計	5	5	5	/	0	0	0	0	0	0

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「修了者数」とは一致しない場合がある。

(博士課程)

(単位:人)

学 校 名	修了者数	就 職 者						進学者		進路 未定者 (就職・進学 以外の進路 含む)	
		合 計	内 訳				赤十字 関係	赤十字 以外			
			医療機関		その他(行政・教育施設等)						
			赤十字病院 (%は対修了者数)	赤十字以外 の病院	赤十字 関係	赤十字 以外					
日本赤十字北海道看護大学	1	1	0	0.0%	0	0	1	0	0	0	
(うち赤十字奨学生)	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0	
日本赤十字秋田看護大学	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	
(うち赤十字奨学生)	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0	
日本赤十字看護大学	5	5	0	0.0	1	1	3	0	0	0	
(うち赤十字奨学生)	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0	
日本赤十字豊田看護大学	2	2	0	0.0	0	0	2	0	0	0	
(うち赤十字奨学生)	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0	
日本赤十字広島看護大学	4	4	0	0.0	0	3	1	0	0	0	
(うち赤十字奨学生)	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0	
日本赤十字九州国際看護大学	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	
(うち赤十字奨学生)	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0	
小 計	12	12	0	0.0	1	4	7	0	0	0	
うち赤十字奨学生小計	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0	
5年 一貫制 博士課程	日本赤十字看護大学	1	0	0	0.0	0	0	0	0	0	1
(うち赤十字奨学生)	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0	
小 計	1	0	0	0.0	0	0	0	0	0	1	
うち赤十字奨学生小計	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0	
合 計	13	12	0	0.0	1	4	7	0	0	1	
うち赤十字奨学生合計	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0	

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「修了生数」とは一致しない場合がある。

4 国家試験の合格状況 (看護師・保健師・助産師 令和6年3月22日発表 介護福祉士 令和6年3月25日発表)

6大学における各国家試験の新卒者の平均合格率は、看護師97.5%、保健師100%及び助産師100%でした。また、短期大学の介護福祉士国家試験の合格率は100%でした。引き続き各大学では、合格率100%を目指し、教育・指導を強化することとしています。

●第113回看護師国家試験

(単位:人)

学校名	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学	95	95	100.0%	91	91	100.0%	4	4	100.0%
日本赤十字秋田看護大学	115	105	91.3	108	100	92.6	7	5	71.4
日本赤十字看護大学看護学部	142	140	98.6	141	139	98.6	1	1	100.0
日本赤十字看護大学さいたま看護学部	86	84	97.7	86	84	97.7	0	0	—
日本赤十字豊田看護大学	118	116	98.3	115	113	98.3	3	3	100.0
日本赤十字広島看護大学	129	125	96.9	128	124	96.9	1	1	100.0
日本赤十字九州国際看護大学	98	95	96.9	93	92	98.9	5	3	60.0
合計	783	760	97.1	762	743	97.5	21	17	81.0

●第110回保健師国家試験

(単位:人)

学校名	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学	20	19	95.0%	19	19	100.0%	1	0	0.0%
日本赤十字秋田看護大学	23	23	100.0	23	23	100.0	0	0	—
日本赤十字看護大学看護学部	20	20	100.0	20	20	100.0	0	0	—
日本赤十字看護大学さいたま看護学部	19	19	100.0	19	19	100.0	0	0	—
日本赤十字豊田看護大学	22	22	100.0	22	22	100.0	0	0	—
日本赤十字広島看護大学	30	30	100.0	30	30	100.0	0	0	—
日本赤十字九州国際看護大学	19	19	100.0	18	18	100.0	1	1	100.0
合計	153	152	99.3	151	151	100.0	2	1	50.0

●第107回助産師国家試験

(単位:人)

学校名	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学大学院	6	6	100.0%	6	6	100.0%	0	0	— %
日本赤十字秋田看護大学大学院	2	2	100.0	0	0	—	2	2	100.0
日本赤十字看護大学大学院	16	16	100.0	15	15	100.0	1	1	100.0
日本赤十字九州国際看護大学大学院	5	5	100.0	4	4	100.0	1	1	100.0
合計(大学院)	29	29	100.0	25	25	100.0	4	4	100.0
日本赤十字広島看護大学(学部)	12	12	100.0	10	10	100.0	2	2	100.0
合計	41	41	100.0	35	35	100.0	6	6	100.0

●第36回介護福祉士国家試験(新卒)

(単位:人)

学校名	受験者	合格者	合格率
日本赤十字秋田短期大学	20	20	100.0%

※既卒の受験者はいない。

教育活動の動向

各大学においては、学生のニーズに配慮した質の高い看護教育への取り組みを実施しています。また、短期大学では、医療・福祉の現場で活躍できる介護福祉士教育が行われています。

1 ICTを活用した教育の推進

平成28年度から、北海道、秋田、豊田、広島及び九州の5看護大学が連携して「大学院看護学研究科共同看護学専攻(博士後期課程)」を設置し、主にWeb会議ツールを用いた教育が実施されています。これまでに蓄積してきた赤十字の教育・研究の資源や成果を1つの「共同教育課程」を通じて有機的に機能させ、看護の発展に寄与できる研究者、教育者及び実践者を輩出しています。

2 赤十字病院等と連携した臨地実習

各大学では、臨地実習科目の約7割、多い大学では9割以上を赤十字病院等と連携して行っています。また、赤十字病院では、看護教員資格を取得可能な研修や臨地実習指導者養成講習会などの教育・指導に関する研修を修了した者が多く在籍し、質の高い臨地実習環境が提供されています。

3 大学院における専門看護師(CNS)教育課程の推進

保健・医療・福祉の発展に貢献し、看護実践の質の向上を図ることに寄与できる高度専門職業人としての看護師を育成するため、全看護大学大学院において、専門看護師(CNS)教育課程を開設しています。

令和5年度は、3看護大学で合計13人が同教育課程を修了しました。

●専門看護師(CNS)が教育課程を設置する大学

(単位:人)

学校名	教育課程名	日本看護系大学協議会 認定単位	修了者数	学校名	教育課程名	日本看護系大学協議会 認定単位	修了者数
日本赤十字 北海道看護大学大学院	慢性看護	38	0	日本赤十字 豊田看護大学大学院	小児看護	38	0
	精神看護	38	0		精神看護	38	0
日本赤十字 秋田看護大学大学院	がん看護	38	0	日本赤十字 広島看護大学大学院	小児看護	38	1
	老年看護	38	0		精神看護	38	0
	精神看護	38	0		災害看護	38	1
がん看護	38	2	がん看護※		38	0	
日本赤十字 看護大学大学院	小児看護	38	1	日本赤十字 九州国際看護大学大学院	クリティカルケア看護	38	0
	慢性看護	38	2		在宅看護	38	1
	クリティカルケア看護	38	1		精神看護	38	0
	老年看護	38	1		老年看護	38	0
	精神看護	38	0	合 計	—	13	
	在宅看護	38	2				
	災害看護	38	1				

※各大学とも看護学研究科看護学専攻修士課程に設置
注)CNS:Certified Nurse Specialist ※休講

4 認定看護管理者(CNA)コースの開設

3看護大学大学院(日看大・豊田・広島)では、認定看護管理者の認定審査を受験できるコース等を設置して資格取得に向けた教育を行っており、令和5年度は7人が修了しました。

●認定看護管理者(CNA)認定審査の 受験資格が取得可能な大学

(単位:人)

学校名	領 域	修了者数
日本赤十字 看護大学大学院	看護管理学領域	3
日本赤十字 豊田看護大学大学院	看護管理学領域	2
日本赤十字 広島看護大学大学院	教育・研究者コース	2
合 計	—	7

※各大学とも修士課程に設置
注)CNA:Certified Nurse Administrator

当学園が設置する各大学の教員は、災害・国際看護などの看護学に関する研究、看護教育に関する研究、赤十字に関する研究など、個々の専門性を活かした研究に取り組みました。

1 学園基金等による研究活動助成

「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」では、赤十字に関する研究として6件の応募があり6件を採択し8,338千円を交付しました。令和5年度は、4年度からの継続事業2件、2年度からの繰り越し事業2件及び3年度からの繰り越し事業4件を合わせ、合計14件の研究を支援しています。

教員の教育・研究活動を推進するための「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による支援については、4件の応募があり2件を採択し1,227千円を交付しました。令和5年度は、4年度からの継続事業1件、2年度からの繰り越し事業1件及び3年度からの繰り越し事業1件を合わせ、合計5件の研究を支援しています。

※繰り越し事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により研究期間を延長したものであること。

●令和5年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」による支援事業の状況【新規事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字北海道看護大学	COVID-19に対応した看護師の道徳的傷つきと精神的ストレス及び組織的サポートニーズ ―クラスター経験との関連―	2年
日本赤十字看護大学	インドネシア共和国における協働によるコミュニティ参画型学校防災プログラムの開発	2年
日本赤十字豊田看護大学	防護動機理論を用いた産科病棟における災害対策の現状とその関連要因の検討	2年
	赤十字病院の複数の部署と大学が連携して取り組む幼児の術前看護モデルの検証	2年
	浅い鎮静深度で管理されている人工呼吸器装着患者に対する睡眠支援	2年
	初学者の模擬電子カルテからの情報収集方法の実際	2年
3 大学 6 件		

【継続事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字看護大学	日本航空 123 便墜落事故での赤十字救護における看護の役割 ～支援活動に携わる人々への支援を含めた看護の実践活動から～	2年
日本赤十字豊田看護大学	地域住民の主体性を基盤にした健康な暮らしを維持する地域防災支援システム構築をめざす実践研究	2年
2 大学 2 件		

【令和3年度事業のうち令和5年度へ繰り越した事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字看護大学	日本航空 123 便墜落事故における赤十字の救護	2年
	コロナ禍で展開したブレンディッド・ラーニングによる学生の学びと看護技術教育方法の検討～日常生活行動援助に焦点を当てて～	2年
日本赤十字豊田看護大学	新型コロナの時代の「イラストで良くわかる高齢者介護施設のための感染対策マニュアル&動画」の作成と、介護施設の職員の感染対策力を底上げする教育システムの構築	2年
日本赤十字九州国際看護大学	看護基礎教育と新人教育のシームレス化を目指した看護技術到達度サプリメントの開発	2年
3 大学 4 件		

【令和2年度事業のうち令和5年度へ繰り越した事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字看護大学	地域医療支援病院でセルフケア支援を普及させる看護職の役割モデルの検討	2年
	東日本大震災後に糖尿病を発症・悪化した人びとにおける生活経験の現象学的記述―複合災害に見舞われた福島県相馬・南相馬地区での調査を介して―	2年
1 大学 2 件		

●令和5年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による支援事業の状況

【新規事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字秋田看護大学	在宅看取りにおける死後の処置手順に対する訪問看護師の認識—病院での死後の処置への認識との違いに着目して—	1年
日本赤十字豊田看護大学	超音波画像診断装置を用いた全身麻酔患者の気管チューブカフ上部分泌物の評価	2年
2 大学 2 件		

【継続事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字秋田看護大学	在宅高齢者の排泄自立支援に向けた専門職者連携モデル開発	2年
1 大学 1 件		

【令和3年度事業のうち令和5年度へ繰り越した事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字豊田看護大学	場面緘黙を抱える成人当事者と家族に有効なサポートの検討	1年
1 大学 1 件		

【令和2年度事業のうち令和5年度へ繰り越した事業】

学校名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字豊田看護大学	看護学実習における看護学生に求める主体性尺度の開発に関する研究	2年
1 大学 1 件		

2 科学研究費等競争的外部資金に係る申請・採択状況

各大学の教員は、研究活動の活性化のため、科学研究費等競争的外部資金への応募を行っています。令和5年度は、6看護大学・1短期大学で合計76件(前年度76件)の新規応募を行い、24件(31.6%, 前年度19件)が採択されました。

また、助成金額の合計額は、「直接経費」が96,675千円(前年度93,203千円)、「間接経費」が25,629千円(前年度30,148千円)の合わせて122,303千円(前年度123,351千円)でした。

●令和5年度科学研究費等競争的外部研究資金に係る申請・採択状況

【大学別採択件数】

(単位:件)

学校名	研究代表者				研究分担者
	新規		継続	合計	
	申請	採択			
日本赤十字北海道看護大学	21	2	6	8	14
日本赤十字秋田看護大学	7	1	7	8	5
日本赤十字看護大学	18	8	18	26	35
日本赤十字豊田看護大学	11	6	14	20	26
日本赤十字広島看護大学	6	1	22	23	10
日本赤十字九州国際看護大学	12	6	11	17	15
日本赤十字秋田短期大学	1	0	0	0	0
合計	76	24	78	102	105

【大学別助成金額】

(単位:千円)

学校名	直接経費				間接経費	合計
	研究代表者		研究分担者	小計		
	新規	継続				
日本赤十字北海道看護大学	13,446	6,000	1,750	21,196	4,843	26,039
日本赤十字秋田看護大学	800	1,500	150	2,450	735	3,185
日本赤十字看護大学	9,600	17,000	8,322	34,922	8,695	43,617
日本赤十字豊田看護大学	9,800	5,000	2,033	16,833	5,050	21,882
日本赤十字広島看護大学	1,200	9,100	1,300	11,600	3,480	15,080
日本赤十字九州国際看護大学	4,900	3,748	1,026	9,674	2,826	12,500
日本赤十字秋田短期大学	0	0	0	0	0	0
合計	39,746	42,348	14,581	96,675	25,629	122,303

○ 継続研究には、他学園から当学園へ異動してきた者も含む。

○ 赤十字と看護・介護に関する研究助成、教育・研究及び奨学費基金にかかる教育・研究事業は除く。

○ 「研究分担者」とは、他の大学等の教職員との共同研究において、研究代表者ではない場合である。

○ 新規研究には、育児休暇取得に伴い補助金留保となっているもの及び前所属施設で申請されたものも含む。

○ 千円未満を四捨五入しているため、各経費の合計と総計が一致しない場合がある。

奨学金の受給状況

6看護大学・1短期大学において、日本赤十字社各支部・病院、日本赤十字社看護師同方会、日本学生支援機構及び自治体等の142機関から、全学生の51.9%にあたる1,867人(実人数)(延べ3,191人(昨年度より92人減)、学部・学科在学生の54.9%、大学院在学生の18.5%)が奨学金を受けました。

そのうち、日本赤十字社各支部・病院からの奨学金は、奨学金受給学生3,191人の26.8%にあたる858人が受給しました。「高等教育の修学支援新制度」を利用した学生は360人でした。

また、6看護大学・1短期大学における奨学金の受給総額は、21億354万円で、一人あたり(実人数)の受給額は学部で約113万円、大学院では約74万円となりました。

●赤十字奨学金の大学別受給状況(令和5年度在学生の実績) ※赤十字奨学金を受給している場合に○を付しています。また、短期大学での受給はありませんでした。

支部名	北海道看護大学	日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	支部名	北海道看護大学	日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学
北海道							滋賀県						
青森県		○					京都府						
岩手県							大阪府		○	○		○	○
宮城県							兵庫県						
秋田県							奈良県						
山形県							和歌山県						
福島県		○					鳥取県						
茨城県							島根県						
栃木県							岡山県						
群馬県							広島県						
埼玉県							山口県						
千葉県			○			○	徳島県						
東京都							香川県						
神奈川県							愛媛県						
新潟県							高知県						
山梨県							福岡県						○
富山県				○			佐賀県						○
石川県				○			長崎県						○
福井県							熊本県						○
長野県				○			大分県						○
岐阜県				○			宮崎県						○
静岡県				○			鹿児島県						○
愛知県				○			沖縄県						○
三重県				○			合計	0	3	2	7	1	10

【医療施設からの受給状況】

医療施設名		北海道看護大学	日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	医療施設名		北海道看護大学	日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学
1	日本赤十字社医療センター			○		○		46	高山赤十字病院						
2	旭川赤十字病院	○						47	岐阜赤十字病院						
3	伊達赤十字病院	○						48	静岡赤十字病院				○		
4	釧路赤十字病院	○						49	浜松赤十字病院			○	○		
5	北見赤十字病院	○						50	伊豆赤十字病院	○					
6	栗山赤十字病院	○						51	引佐赤十字病院						
7	浦河赤十字病院	○						52	裾野赤十字病院						
8	小清水赤十字病院	○						53	日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院				○		
9	置戸赤十字病院	○						54	日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院				○		
10	函館赤十字病院	○	○					55	伊勢赤十字病院	○			○		
11	清水赤十字病院	○						56	大津赤十字病院				○	○	
12	八戸赤十字病院							57	大津赤十字志賀病院						
13	盛岡赤十字病院							58	長浜赤十字病院						
14	仙台赤十字病院		○					59	京都第一赤十字病院					○	○
15	石巻赤十字病院		○				○	60	京都第二赤十字病院						
16	秋田赤十字病院		○					61	舞鶴赤十字病院						
17	福島赤十字病院	○						62	大阪赤十字病院						
18	水戸赤十字病院			○				63	高槻赤十字病院						
19	古河赤十字病院			○				64	姫路赤十字病院						
20	芳賀赤十字病院							65	多可赤十字病院						
21	那須赤十字病院		○	○				66	神戸赤十字病院						○
22	足利赤十字病院							67	日本赤十字社和歌山医療センター						
23	前橋赤十字病院							68	鳥取赤十字病院						○
24	原町赤十字病院			○				69	松江赤十字病院						○
25	さいたま赤十字病院							70	益田赤十字病院						○
26	小川赤十字病院			○				71	岡山赤十字病院						○
27	深谷赤十字病院			○				72	岡山赤十字玉野病院						
28	成田赤十字病院	○		○				73	広島赤十字・原爆病院						○
29	武蔵野赤十字病院	○		○			○	74	庄原赤十字病院						○
30	大森赤十字病院		○	○		○	○	75	三原赤十字病院						
31	東京かつしか赤十字母子医療センター			○				76	山口赤十字病院						○
32	みなと赤十字病院	○	○	○	○	○	○	77	小野田赤十字病院						
33	秦野赤十字病院			○				78	徳島赤十字病院						○
34	相模原赤十字病院			○				79	高松赤十字病院				○	○	○
35	長岡赤十字病院			○				80	松山赤十字病院						○
36	山梨赤十字病院							81	高知赤十字病院						○
37	富山赤十字病院							82	福岡赤十字病院						○
38	金沢赤十字病院							83	今津赤十字病院						
39	福井赤十字病院				○			84	嘉麻赤十字病院						
40	長野赤十字病院		○	○				85	唐津赤十字病院						
41	諏訪赤十字病院				○			86	日本赤十字社長崎原爆病院						
42	安曇野赤十字病院							87	日本赤十字社長崎諫早病院						
43	川西赤十字病院							88	熊本赤十字病院						○
44	下伊那赤十字病院							89	大分赤十字病院						
45	飯山赤十字病院							90	鹿児島赤十字病院						○
								91	沖縄赤十字病院						
								合計		16	8	17	10	17	10

日本赤十字国際人道研究センターの動向

日本赤十字国際人道研究センター(Japanese Red Cross Institute for Humanitarian Studies)は、日本赤十字学園が設置する6大学、1短期大学の教育研究の専門人材を活かした人道問題に関する学術的な拠点として、調査・研究事業等を実施することを目的に、平成23年4月、日本赤十字看護大学内に日本赤十字社の協力を得て開設されました。

主な 事業内容

- 国際赤十字(日本赤十字社を含む。以下同じ。)の歴史・史料に関する調査研究
- 国際赤十字の活動及び事業に関する調査研究
- 国際人道法の普及及び調査研究に必要な事業
- 国際赤十字関係機関・団体等との学術研究の連携・協力
- 看護大学・短期大学が行う調査研究の支援

令和5年度の研究活動

1 「人道研究ジャーナル」Vol.13の刊行

本誌は、当センターの機関誌で、今年度は、巻頭に赤十字国際委員会駐日代表の寄稿並びに国際人道法に関する専門家の寄稿を掲載しました。また、特集1として赤十字医療現場からのレポート「コロナ禍の教訓」、特集2として「赤十字と博物館」を取り上げたほかに「赤十字看護教育の創始者たち」などを掲載しました。

1,600部を作成し、日本赤十字社都道府県支部・施設をはじめ、関連省庁、主要人道関連団体、主要大学研究者、主要大学図書館及び教育機関等へ配布しました。

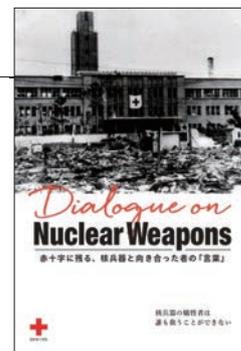


「人道研究ジャーナル」Vol.13

2 教育・啓発用資材の制作

「Dialogue on Nuclear Weapons —赤十字に残る、核兵器と向き合った者の『言葉』」の第2刷

広島・長崎への原爆投下以降、一貫して核兵器廃絶を訴えてきた日本赤十字社の活動や国際赤十字・赤新月運動の一端を被災者の救護活動など数々のエピソードを通じて紹介する冊子を3,000部増刷し、国際人道法の普及や核廃絶キャンペーンの促進のために有効に活用しました。



「Dialogue on Nuclear Weapons
—赤十字に残る、核兵器と向き合った者の『言葉』」(第2刷)

3 日本赤十字社の歴史史料調査・収集

日本赤十字看護大学における歴史史料の展示等

日本赤十字看護大学の看護の歴史に関する史料の収集と保存、閲覧サービス、学内やホームページでの展示を継続して行いました。今年度の展示コーナーでは、新型コロナウイルス感染症の教訓を踏まえ、「パンデミックと看護～感染症に立ち向かい、発展する看護～」をテーマに企画展が開催されました。展示には、第10回赤十字国際会議(1912年)での公衆衛生事業推進の決議を受け、ロンドンで開催された公衆衛生看護講習会に日本赤十字社病院の看護婦長が参加したこと、また1928年に「日本赤十字社会看護婦養成規則」が制定され、公衆衛生看護の人材育成を推進するなど日本の公衆衛生看護の先駆けとなったことに関する貴重な



写真や資料が展示されました。

看護にかかる歴史的史料については、寄贈されたものを中心に記録写真集として史料集第14巻の普及版を作成し、全国の看護大学・看護専門学校等に配布しました。

日看大展示コーナー

4 研究員による海外調査・研究活動概要

国民保護法に基づく日本赤十字社の対応に関する調査研究

米国、英国などの先進国の赤十字社が国民保護のために策定している計画に関する文献等の調査分析を行い、また本社関連部署との国民保護対応の勉強会を開催しました。

1946年看護教育制度改革における赤十字看護教育に関する調査研究

戦後、各地の日本赤十字社看護婦養成所における看護教育の改革の状況について日赤社史稿・記念誌等から関連記事等を整理し分析しています。

第二次世界戦中のホロコーストに関する調査研究

ナチス・ドイツによるユダヤ人のホロコーストに関するドイツ、ポーランドの歴史史跡の調査研究を実施しました。アウシュビッツ＝ビルケナウ強制収容所(ポーランド)及び「ベルリン・ユダヤ」博物館などの訪問及び関係資料の収集・調査を行いました。

IFRC・PSセンター発行のマニュアル類(「The well-being guide」等)の翻訳

IFRC(国際赤十字・赤新月社連盟)のPSセンター(心理社会的支援リファレンスセンター)が発行している「こころのケア」に関するマニュアルのうち「The well-being guide」の翻訳を行っています。

『地獄の塹壕に対峙して—赤十字国際委員会(ICRC)と第一次世界大戦』の翻訳

F.Bugnion著 Confronting the Hell of the Trenches—The ICRC and the First World War 2018の翻訳を行っています。原著は第一次世界大戦を機にICRCがどう変貌したかを多角的に分析・解説しています。

学校会計の決算状況を報告します

1 資金収支決算

資金収支計算書は、当該会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収入・支出の内容並びに支払資金の動きを明らかにするものです。

1 資金収入の部

資金収入合計 **13,517,809**千円（前年度比 **457,601**千円 **増**）

資金収入合計で、**増額**となりました。

（単位：千円）

科目	令和5年度			令和4年度 決算額	対前年度比較	
	予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)
学生生徒等納付金収入	5,824,946	5,644,412	180,534	5,603,905	① 40,507	0.7
手数料収入	123,748	99,451	24,297	108,334	△ 8,883	△ 8.2
寄付金収入	196,212	324,124	△ 127,912	229,974	② 94,150	40.9
補助金収入	1,042,985	1,162,714	△ 119,729	1,154,467	8,247	0.7
資産売却収入	0	0	0	100,000	③ △ 100,000	△ 100.0
付随事業・収益事業収入	30,988	23,938	7,050	39,135	④ △ 15,197	△ 38.8
受取利息・配当金収入	108,867	108,290	577	102,090	6,200	6.1
雑収入	30,571	43,185	△ 12,614	34,819	8,366	24.0
借入金等収入	0	0	0	0	0	—
前受金収入	460,710	436,322	24,388	463,648	△ 27,326	△ 5.9
その他の収入	1,776,798	2,157,915	△ 381,117	1,927,374	230,541	12.0
資金収入調整勘定	△ 567,229	△ 590,257	23,028	△ 581,879	△ 8,378	1.4
前年度繰越支払資金	4,107,708	4,107,711	△ 3	3,878,340	⑤ 229,371	5.9
合計	13,136,304	13,517,809	△ 381,505	13,060,208	457,601	3.5

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

① 学生生徒等納付金収入 前年度比**40,507**千円 **増**

→日本赤十字看護大学さいたま看護学部の開設4年目による在学生数の増加等により、前年度比**40,507**千円の**増額**となりました。

② 寄付金収入 前年度比**94,150**千円 **増**

→教育基盤整備事業に対する日本赤十字社からの助成金及び一般寄付金の増加等により、前年度比**94,150**千円の**増額**となりました。

③ 資産売却収入 前年度比**100,000**千円 **減**

→前年度計上した日本赤十字看護大学保有債券の満期償還に伴う有価証券売却収入の減少により、前年度比**100,000**千円の**減額**となりました。

④ 付随事業・収益事業収入 前年度比**15,197**千円 **減**

→前年度計上した北海道看護大学の新型コロナウイルスワクチン職域接種への協力の減少等により、前年度比**15,197**千円の**減額**となりました。

⑤ 前年度繰越支払資金 前年度比**229,371**千円 **増**

→前年度繰越支払資金（現預金）は、前年度比**229,371**千円の**増額**となりました。

2 資金支出の部

資金支出合計 **13,517,809**千円（前年度比 **457,601**千円 **増**）

資金支出合計で、**増額**となりました。

（単位：千円）

科目	令和5年度			令和4年度 決算額	対前年度比較	
	予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)
人件費支出	4,723,392	4,573,262	150,130	4,567,036	6,226	0.1
教育研究経費支出	1,976,029	1,740,662	235,367	1,673,571	① 67,091	4.0
管理経費支出	409,280	385,255	24,025	353,969	② 31,286	8.8
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	—
借入金等返済支出	0	0	0	0	0	—
施設関係支出	354,091	130,387	223,704	208,429	③ △ 78,042	△ 37.4
設備関係支出	178,715	217,390	△ 38,675	248,736	④ △ 31,346	△ 12.6
資産運用支出	618,423	414,396	204,027	557,047	⑤ △ 142,651	△ 25.6
その他の支出	1,714,091	2,176,132	△ 462,041	1,889,543	286,589	15.2
予備費	3,100	0	3,100	0	0	—
資金支出調整勘定	△ 604,838	△ 540,644	△ 64,194	△ 545,837	5,193	△ 1.0
翌年度繰越支払資金	3,764,021	4,420,963	△ 656,942	4,107,711	⑥ 313,252	7.6
合計	13,136,304	13,517,809	△ 381,505	13,060,208	457,601	3.5

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

①教育研究経費支出 前年度比**67,091**千円 **増**

→国による電気・ガス価格激変緩和対策事業等の影響により光熱水費支出が減少した一方、新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴う旅費交通費支出の増加及び校舎等の修繕費支出等経費の増加により、前年度比**67,091**千円の**増額**となりました。

②管理経費支出 前年度比**31,286**千円 **増**

→校舎等の修繕費支出及び学園の看護大学をPRするための動画制作と展開にかかる広報費支出等経費の増加により、前年度比**31,286**千円の**増額**となりました。

③施設関係支出 前年度比**78,042**千円 **減**

→前年度計上した九州国際看護大学における校舎等の通信設備整備費の減少等により、**78,042**千円の**減額**となりました。

④設備関係支出 前年度比**31,346**千円 **減**

→前年度計上した日本赤十字看護大学における教育研究用機器備品支出の減少等により、前年度比**31,346**千円の**減額**となりました。

⑤資産運用支出 前年度比**142,651**千円 **減**

→各大学が計上した退職給与引当特定資産及び施設設備整備引当特定資産への繰入支出の減少等により、前年度比**142,651**千円の**減額**となりました。

⑥翌年度繰越支払資金 前年度比**313,252**千円 **増**

→翌年度繰越支払資金（現預金）は、前年度比**313,252**千円の**増額**となりました。

2 事業活動 収支決算

事業活動収支計算書は、学生生徒等納付金等本業の教育活動に対する「教育活動収支」、受取利息等財務活動に対する「教育活動外収支」及び資産売却等臨時的な活動に対する「特別収支」の3つに区分して表示しています。

また、本計算書は、当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容並びに基本金組入額及び基本金取崩額等を含め、事業収支の均衡状態を示すものです。

(単位：千円)

区分	科目	令和5年度			令和4年度 決算額	対前年度比較		
		予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,824,946	5,644,412	180,534	5,603,905	① 40,507	0.7
		手数料	123,748	99,451	24,297	108,334	△ 8,883	△ 8.2
		寄付金	128,062	183,625	△ 55,563	113,941	② 69,684	61.2
		経常費等補助金	1,042,985	1,137,178	△ 94,193	1,134,522	2,656	0.2
		付随事業収入	30,988	23,938	7,050	39,135	③ △ 15,197	△ 38.8
		雑収入	32,026	43,811	△ 11,785	34,556	9,255	26.8
		計	7,182,755	7,132,418	50,337	7,034,395	98,023	1.4
	事業活動支出の部	人件費	4,716,460	4,408,324	308,136	4,629,388	⑤ △ 221,064	△ 4.8
		教育研究経費	2,700,347	2,468,503	231,844	2,442,619	⑥ 25,884	1.1
		管理経費	447,588	423,299	24,289	391,518	⑦ 31,781	8.1
徴収不能額等		0	1,115	△ 1,115	125	990	792.0	
計		7,864,395	7,301,243	563,152	7,463,651	△ 162,408	△ 2.2	
	教育活動収支差額	△ 681,640	△ 168,824	△ 512,816	△ 429,256	260,432	△ 60.7	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	108,867	108,290	577	102,090	6,200	6.1
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	—
		計	108,867	108,290	577	102,090	6,200	6.1
	支出の部	借入金等利息	0	0	0	0	0	—
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	—
		計	0	0	0	0	0	—
	教育活動外収支差額	108,867	108,290	577	102,090	6,200	6.1	
	経常収支差額	△ 572,773	△ 60,534	△ 512,239	△ 327,166	266,632	△ 81.5	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	99	△ 99	—
		その他の特別収入	69,518	181,457	△ 111,939	150,002	④ 31,455	21.0
		計	69,518	181,457	△ 111,939	150,101	31,356	20.9
	支出の部	資産処分差額	7,100	22,190	△ 15,090	24,945	△ 2,755	△ 11.0
		その他の特別支出	0	327	△ 327	579	△ 252	△ 43.5
		計	7,100	22,517	△ 15,417	25,525	△ 3,008	△ 11.8
	特別収支差額	62,418	158,939	△ 96,521	124,576	34,363	27.6	
	予備費	3,100	0	3,100	0	0	—	
	基本金組入前当年度収支差額	△ 513,455	98,405	△ 611,860	△ 202,589	300,994	△ 148.6	
	基本金組入額合計	△ 333,792	△ 131,078	△ 202,714	△ 68,398	△ 62,680	91.6	
	当年度収支差額	△ 847,247	△ 32,672	△ 814,575	△ 270,988	238,316	△ 87.9	
	前年度繰越収支差額	△ 1,010,181	△ 1,010,180	△ 1	△ 777,207	△ 232,973	30.0	
	基本金取崩額	31,435	30,879	556	38,016	△ 7,137	△ 18.8	
	翌年度繰越収支差額	△ 1,825,993	△ 1,011,973	△ 814,020	△ 1,010,180	△ 1,793	0.2	
参考	事業活動収入計	7,361,140	7,422,166	△ 61,026	7,286,587	135,579	1.9	
	事業活動支出計	7,874,595	7,323,761	550,834	7,489,177	△ 165,416	△ 2.2	

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

1 事業活動収入の部

① 学生生徒等納付金 前年度比**40,507千円** **増**

→日本赤十字看護大学さいたま看護学部の開設4年目による在学生数の増加等により、前年度比**40,507千円**の**増額**となりました。

② 寄付金 前年度比**69,684千円** **増**

→教育基盤整備事業に対する日本赤十字社からの助成金及び一般寄付金の増加等により、前年度比**69,684千円**の**増額**となりました。

③ 付随事業収入 前年度比**15,197千円** **減**

→前年度計上した北海道看護大学の新型コロナウイルスワクチン職域接種への協力の減少等により、前年度比**15,197千円**の**減額**となりました。

④ その他の特別収入 前年度比**31,455千円** **増**

→豊田看護大学の開学20周年記念事業にかかる寄付金の増加及び九州国際看護大学の情報通信機器整備に対する国庫補助金の交付等により、前年度比**31,455千円**の**増額**となりました。

2 事業活動支出の部

⑤ 人件費 前年度比**221,064千円** **減**

→退職金制度改正に伴う退職給与引当金繰入額の減少等により、前年度比**221,064千円**の**減額**となりました。

⑥ 教育研究経費 前年度比**25,884千円** **増**

→国による電気・ガス価格激変緩和対策事業等の影響により光熱水費が減少した一方、新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴う旅費交通費の増加及び校舎等の修繕費等経費の増加により、前年度比**25,884千円**の**増額**となりました。

⑦ 管理経費 前年度比**31,781千円** **増**

→校舎等の修繕費及び学園の看護大学をPRするための動画制作と展開にかかる広報費等経費の増加により、前年度比**31,781千円**の**増額**となりました。

3 基本金組入額等

基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、維持すべきものとして事業活動収入から組み入れた金額です。

令和5年度は、基本金全体としては、131,078千円を組み入れ、30,879千円を取り崩しました。

(参考)基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで4種類あります。

- 第1号基本金は、施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、令和5年度は法人本部及び5大学で合わせて131,078千円を組み入れ、広島看護大学及び秋田短期大学で合わせて30,879千円を取り崩しました。
- 第3号基本金は、教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金及び奨学基金等の設定であり、令和5年度の組み入れはありません。
- 第4号基本金は、恒常的な資金の維持のための設定であり、令和5年度の組み入れはありません。

3 貸借対照表

資産の部、負債及び純資産の部の科目ごとに、当該会計年度末の額を前年度会計年度末の額と比較して、当該会計年度末の財産の状況を表すものです。

1 資産の部

(単位：千円)

科目		年度	令和5年度	令和4年度	増減
資産の部	固定資産		44,459,692	44,886,814	△ 427,122
	有形固定資産		22,608,284	23,022,542	① △ 414,258
	特定資産		21,787,613	21,792,175	② △ 4,562
	その他の固定資産		63,794	72,096	③ △ 8,302
	流動資産		4,564,871	4,233,325	④ 331,546
	資産の部合計		49,024,563	49,120,139	△ 95,576

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しないことがある。

【資産の部】

①有形固定資産 前年度比414,258千円 減

→豊田看護大学、九州国際看護大学の教育研究用機器備品の整備の他、各大学の固定資産の整備があった一方、設備等の更新に伴う除却及び減価償却額の計上により減少しました。

②特定資産 前年度比4,562千円 減

→施設設備の更新等に使用する施設設備整備引当特定資産等が増加した一方、退職給与引当特定資産が減少しました。

③その他の固定資産 前年度比8,302千円 減

→北海道看護大学保有の債券の満期償還及び各大学のソフトウェアの減価償却額の計上等により減少しました。

④流動資産 前年度比331,546千円 増

→退職金制度改正による退職給与引当特定資産への繰入の減少の影響もあり、現金・預金等が増加しました。

2 負債・純資産の部

(単位：千円)

科目		年度	令和5年度	令和4年度	増減
負債の部	固定負債		1,974,472	2,145,511	① △ 171,039
	流動負債		1,234,731	1,257,675	② △ 22,944
	負債の部合計		3,209,204	3,403,186	△ 193,982
純資産の部	基本金		46,827,332	46,727,133	③ 100,199
	繰越収支差額		△ 1,011,973	△ 1,010,180	④ △ 1,793
	純資産の部合計		45,815,358	45,716,953	98,405
負債及び純資産の部合計			49,024,563	49,120,139	△ 95,576

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しないことがある。

【負債の部】

① 固定負債 前年度比171,039千円 ↓ 減

→退職給与引当金の影響により減少しました。

② 流動負債 前年度比22,944千円 ↓ 減

→年度末に計上した前受金等により減少しました。

【純資産の部】

③ 基本金 前年度比100,199千円 ↑ 増

→日本赤十字看護大学、九州国際看護大学の教育研究用機器備品の整備等により固定資産取得による組み入れを行ったため、第1号基本金は増加しました。

④ 繰越収支差額 前年度比1,793千円 ↓ 減

→基本金組入額等1億円の増により、繰越収支差額は減少しました。

4 財産目録

財産目録は、令和6年3月31日現在の基本財産、運用財産、負債額を示したものです。

①資産総額 49,024,563,172円

→内 基本財産 22,617,083,818円
運用財産 26,407,479,354円

②負債総額 3,209,204,201円

正味財産 45,815,358,971円

(単位：円)

科目	数量	金額
①資産		49,024,563,172
1 基本財産		22,617,083,818
(1) 土地 (校舎敷地、運動場等)	205,651.48㎡	7,270,018,309
(2) 建物 (校舎、図書館、体育館等)	104,561.51㎡	12,680,506,268
(3) 図書 (和書、洋書、視聴覚資料12,648点)	388,608冊	1,669,999,135
(4) 教具等 (教具、校具、管理用備品)	20,606点	850,185,873
(5) 構築物 (道路舗装工事他)		110,623,419
(6) その他 (車両、電話加入権等)		35,750,814
2 運用財産		26,407,479,354
(1) 預金・現金		4,420,963,923
(2) 積立金 (施設設備整備引当特定資産等)		21,787,613,062
(3) 有価証券 (国債等)		51,983,046
(4) 不動産 (土地)		163,584
(5) 長期貸付金 (奨学金)		2,711,000
(6) 差入保証金 (敷金等)		137,490
(7) 未収入金 (地方公共団体補助金等)		129,218,750
(8) 前払金・立替金・短期貸付金		14,688,499
②負債		3,209,204,201
1 固定負債 (長期末払金、退職給与引当金)		1,974,472,968
2 流動負債 (前受金、未払金、預り金)		1,234,731,233
借用財産		
1 土地 (校舎敷地等)	66,534.16㎡	
2 建物 (寄宿舎等)	3,619.34㎡	

5 参考

1 過去5カ年の資金収支計算書(学校法人全体)

(単位：千円)

科目	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度			
	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	対前年比(%)	
資金収入の部	学生生徒等納付金収入	5,281,160	41.6	5,377,575	41.5	5,508,670	42.4	5,603,905	42.9	5,644,412	41.8	100.7
	手数料収入	119,144	0.9	118,327	0.9	120,777	0.9	108,334	0.8	99,451	0.7	91.8
	寄付金収入	55,012	0.4	147,096	1.1	185,734	1.4	229,974	1.8	324,124	2.4	140.9
	補助金収入	821,667	6.5	1,037,602	8.0	1,096,770	8.4	1,154,467	8.8	1,162,714	8.6	100.7
	資産売却収入	39	0.0	5	0.0	895	0.0	100,000	0.8	0	0.0	0.0
	付随事業・収益事業収入	40,516	0.3	40,623	0.3	74,485	0.6	39,135	0.3	23,938	0.2	61.2
	受取利息・配当金収入	110,614	0.9	109,384	0.8	110,260	0.8	102,090	0.8	108,290	0.8	106.1
	前受金収入	482,538	3.8	480,818	3.7	471,534	3.6	463,648	3.6	436,322	3.2	94.1
	その他の収入等	1,900,354	15.0	1,921,148	14.8	1,708,845	13.1	1,962,193	15.0	2,201,100	16.3	112.2
	資金収入調整勘定	△ 596,430	△ 4.7	△ 583,450	△ 4.5	△ 603,077	△ 4.6	△ 581,879	△ 4.5	△ 590,257	△ 4.4	101.4
	前年度繰越支払資金	4,483,605	35.3	4,319,827	33.3	4,332,565	33.3	3,878,340	29.7	4,107,711	30.4	105.9
	資金収入合計	12,698,223	100.0	12,968,960	100.0	13,007,463	100.0	13,060,208	100.0	13,517,809	100.0	103.5
資金支出の部	人件費支出	4,233,933	33.3	4,259,933	32.8	4,381,501	33.7	4,567,036	35.0	4,573,262	33.8	100.1
	教育研究経費支出	1,298,162	10.2	1,499,489	11.6	1,593,166	12.2	1,673,571	12.8	1,740,662	12.9	104.0
	管理経費支出	538,513	4.2	335,367	2.6	381,439	2.9	353,969	2.7	385,255	2.8	108.8
	借入金等利息・返済支出	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	—
	施設関係支出	178,663	1.4	312,213	2.4	551,254	4.2	208,429	1.6	130,387	1.0	62.6
	設備関係支出	375,772	3.0	274,849	2.1	209,706	1.6	248,736	1.9	217,390	1.6	87.4
	資産運用支出	448,501	3.5	376,409	2.9	620,584	4.8	557,047	4.3	414,396	3.1	74.4
	その他支出	1,899,309	15.0	2,003,851	15.5	1,770,054	13.6	1,889,543	14.5	2,176,132	16.1	115.2
	資金支出調整勘定	△ 594,461	△ 4.7	△ 425,719	△ 3.3	△ 378,584	△ 2.9	△ 545,837	△ 4.2	△ 540,644	△ 4.0	99.0
	翌年度繰越支払資金	4,319,827	34.0	4,332,565	33.4	3,878,340	29.8	4,107,711	31.5	4,420,963	32.7	107.6
	資金支出合計	12,698,223	100.0	12,968,960	100.0	13,007,463	100.0	13,060,208	100.0	13,517,809	100.0	103.5

*資金収支においては、その年度の現金の動きを表示していることから、収入合計と支出合計額が一致している。

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

*学校法人全体の資金収支計算書においては、各部門間の内部取引収入および支出は相殺されている。

*各科目の構成比率は、それぞれの合計に占める割合となっている。

2 過去5カ年の事業活動収支計算書(学校法人全体)

(単位：千円)

科目	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度				
	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	対前年比(%)		
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	5,281,160	81.4	5,377,575	78.1	5,508,670	77.1	5,603,905	76.9	5,644,412	76.0	100.7	
	手数料	119,144	1.8	118,327	1.7	120,777	1.7	108,334	1.5	99,451	1.3	91.8	
	寄付金	51,990	0.8	82,304	1.2	62,759	0.9	113,941	1.6	183,625	2.5	161.2	
	経常費等補助金	821,667	12.7	972,345	14.1	1,081,798	15.1	1,134,522	15.6	1,137,178	15.3	100.2	
	付随事業収入	40,516	0.6	40,623	0.6	74,485	1.0	39,135	0.5	23,938	0.3	61.2	
	雑収入	52,863	0.8	40,043	0.6	37,103	0.5	34,556	0.5	43,811	0.6	126.8	
	計	6,367,342	98.2	6,631,221	96.2	6,885,594	96.4	7,034,395	96.5	7,132,418	96.1	101.4	
教育活動支出の部	人件費	4,229,491	61.5	4,415,988	62.1	4,537,391	61.3	4,629,388	61.8	4,408,324	60.2	95.2	
	教育研究経費	1,991,312	29.0	2,300,643	32.4	2,435,006	32.9	2,442,619	32.6	2,468,503	33.7	101.1	
	管理経費	632,087	9.2	367,448	5.2	417,832	5.6	391,518	5.2	423,299	5.8	108.1	
	徴収不能額等	0	0.0	420	0.0	106	0.0	125	0.0	1,115	0.0	892.0	
	計	6,852,891	99.7	7,084,501	99.6	7,390,337	99.8	7,463,651	99.7	7,301,243	99.7	97.8	
教育活動収支差額	△ 485,548	-	△ 453,279	-	△ 504,742	-	△ 429,256	-	△ 168,824	-	39.3		
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	110,614	1.7	109,384	1.6	110,260	1.5	102,090	1.4	108,290	1.5	106.1	
	その他の教育活動外収入	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	
	計	110,614	1.7	109,384	1.6	110,260	1.5	102,090	1.4	108,290	1.5	106.1	
	教育活動外支出の部	借入金等利息	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-
		その他の教育活動外支出	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-
計	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-		
教育活動外収支差額	110,614	-	109,384	-	110,260	-	102,090	-	108,290	-	106.1		
経常収支差額	△ 374,934	-	△ 343,895	-	△ 394,482	-	△ 327,166	-	△ 60,534	-	18.5		
特別収入	資産売却差額	39	0.0	2,044	0.0	895	0.0	99	0.0	0	0.0	0.0	
	その他の特別収入	6,233	0.1	146,931	2.1	147,379	2.1	150,002	2.1	181,457	2.4	121.0	
	計	6,273	0.1	148,975	2.2	148,274	2.1	150,101	2.1	181,457	2.4	120.9	
	資産処分差額	19,974	0.3	21,962	0.3	15,380	0.2	24,945	0.3	22,190	0.3	89.0	
	その他の特別支出	376	0.0	3,818	0.1	850	0.0	579	0.0	327	0.0	56.5	
計	20,351	0.3	25,780	0.4	16,231	0.2	25,525	0.3	22,517	0.3	88.2		
特別収支差額	△ 14,077	-	123,194	-	132,043	-	124,576	-	158,939	-	127.6		
基本金組入前当年度収支差額	△ 389,012	-	△ 220,700	-	△ 262,438	-	△ 202,589	-	98,405	-	△ 48.6		
基本金組入額合計	△ 312,419	-	△ 2,854,408	-	△ 616,688	-	△ 68,398	-	△ 131,078	-	191.6		
当年度収支差額	△ 701,431	-	△ 3,075,109	-	△ 879,127	-	△ 270,988	-	△ 32,672	-	12.1		
前年度繰越収支差額	1,045,249	-	405,667	-	36,285	-	△ 777,207	-	△ 1,010,180	-	130.0		
基本金取崩額	61,848	-	2,705,727	-	65,633	-	38,016	-	30,879	-	81.2		
翌年度繰越収支差額	405,667	-	36,285	-	△ 777,207	-	△ 1,010,180	-	△ 1,011,973	-	100.2		

(参考)

事業活動収入計	6,484,230	100.0	6,889,581	100.0	7,144,129	100.0	7,286,587	100.0	7,422,166	100.0	101.9
事業活動支出計	6,873,242	100.0	7,110,282	100.0	7,406,568	100.0	7,489,177	100.0	7,323,761	100.0	97.8

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

*学校法人全体の事業活動収支計算書においては、各部門間の内部取引収入及び支出は相殺されている。

*各科目の構成比率は、事業活動収入計及び支出計に対して、それぞれに占める割合となっている。

3 過去5カ年の貸借対照表(学校法人全体)

(単位：千円)

科目	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度			
	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	対前年比 (%)	
資産の部	固定資産	44,981,105	91.0	44,799,547	90.9	45,105,553	91.8	44,886,814	91.4	44,459,692	90.7	99.0
	有形固定資産	23,690,938	47.9	23,459,533	47.6	23,361,731	47.6	23,022,542	46.9	22,608,284	46.1	98.2
	特定資産	21,043,255	42.6	21,117,332	42.9	21,548,793	43.9	21,792,175	44.4	21,787,613	44.4	100.0
	その他の固定資産	246,911	0.5	222,681	0.5	195,028	0.4	72,096	0.1	63,794	0.1	88.5
	流動資産	4,442,640	9.0	4,466,062	9.1	4,013,629	8.2	4,233,325	8.6	4,564,871	9.3	107.8
	うち現金預金	4,319,827	8.7	4,332,565	8.8	3,878,340	7.9	4,107,711	8.4	4,420,963	9.0	107.6
	資産の部合計	49,423,745	100.0	49,265,610	100.0	49,119,183	100.0	49,120,139	100.0	49,024,563	100.0	99.8

(単位：千円)

科目	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度			
	金額	構成比率 (%)	対前年比 (%)									
負債の部	固定負債	1,753,254	3.5	1,915,265	3.9	2,066,019	4.2	2,145,511	4.4	1,974,472	4.0	92.0
	流動負債	1,267,808	2.6	1,168,362	2.4	1,133,620	2.3	1,257,675	2.6	1,234,731	2.5	98.2
	うち前受金	472,788	1.0	483,718	1.0	472,984	1.0	463,648	0.9	436,322	0.9	94.1
	負債の部合計	3,021,063	6.1	3,083,628	6.3	3,199,639	6.5	3,403,186	6.9	3,209,204	6.5	94.3
純資産の部	基本金	45,997,015	93.1	46,145,696	93.7	46,696,750	95.1	46,727,133	95.1	46,827,332	95.5	100.2
	第1号基本金	41,616,015	84.2	41,743,696	84.7	42,280,750	86.1	42,299,133	86.1	42,399,332	86.5	100.2
	第2号基本金	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	—
	第3号基本金	3,930,000	8.0	3,930,000	8.0	3,930,000	8.0	3,930,000	8.0	3,930,000	8.0	100.0
	第4号基本金	451,000	0.9	472,000	1.0	486,000	1.0	498,000	1.0	498,000	1.0	100.0
	繰越収支差額	405,667	0.8	36,285	0.1	△ 777,207	△ 1.6	△ 1,010,180	△ 2.1	△ 1,011,973	△ 2.1	100.2
	純資産の部合計	46,402,682	93.9	46,181,981	93.7	45,919,543	93.5	45,716,953	93.1	45,815,358	93.5	100.2
負債の部、 純資産の部合計	49,423,745	100.0	49,265,610	100.0	49,119,183	100.0	49,120,139	100.0	49,024,563	100.0	99.8	

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

人道の理念に基づき、日本の看護・介護

学園の沿革

令和6年3月31日 現在

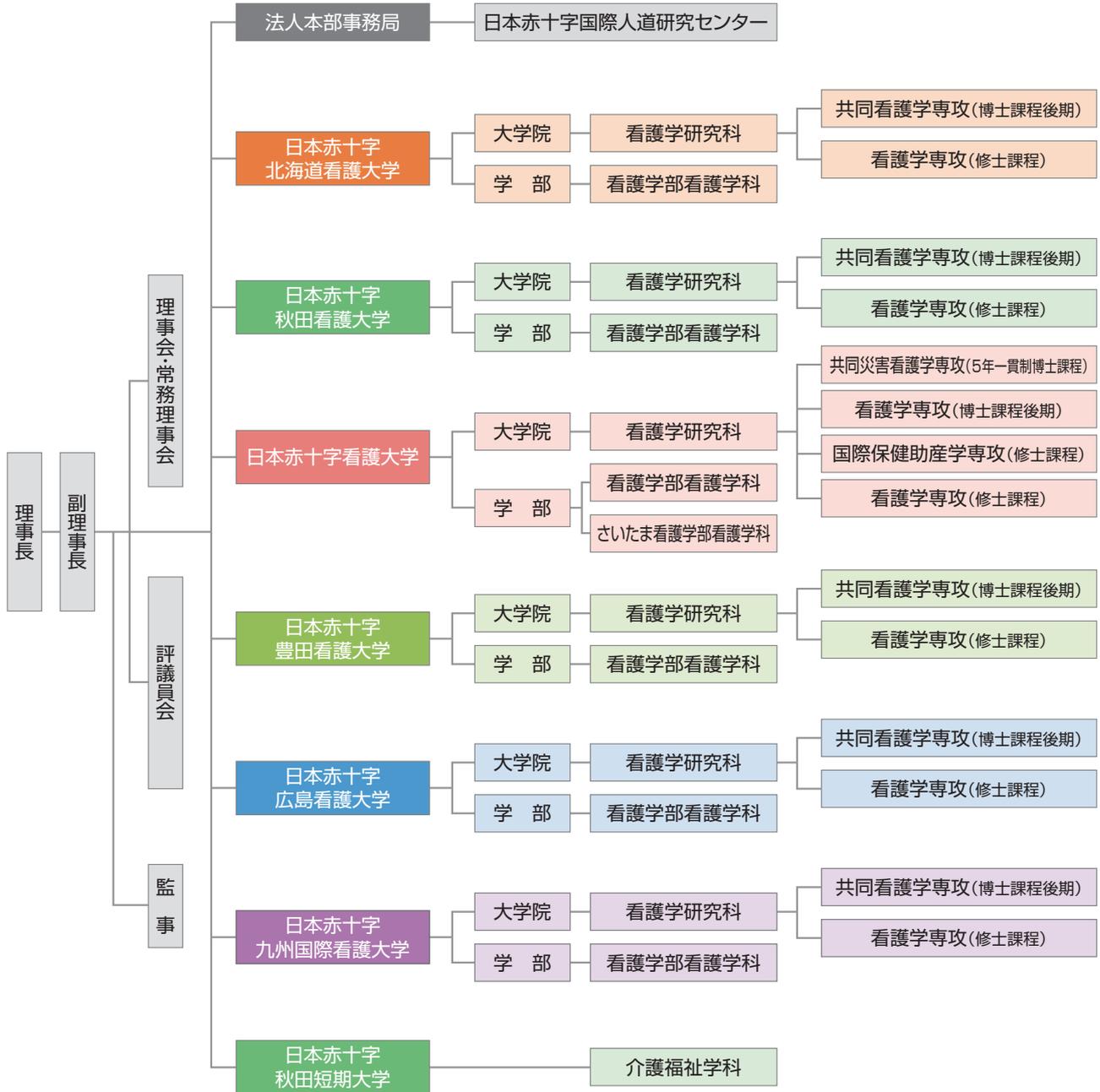
明治10年 (1877年)	博愛社を設立
明治20年 (1887年)	博愛社から日本赤十字社に改称
明治23年 (1890年)	日本赤十字社看護婦養成所を設立
昭和21年 (1946年)	日本赤十字女子専門学校に昇格 財団法人日本赤十字女子専門学校を設立
昭和29年 (1954年)	財団法人日本赤十字女子専門学校を学校法人日本赤十字女子短期大学に改組 日本赤十字女子短期大学を設立
昭和41年 (1966年)	学校法人日本赤十字女子短期大学を学校法人日本赤十字学園に改称 日本赤十字女子短期大学を日本赤十字中央女子短期大学に改称 日本赤十字武蔵野女子短期大学看護学科を開設
昭和50年 (1975年)	学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を開設
昭和53年 (1978年)	学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校に改称
昭和61年 (1986年)	日本赤十字看護大学看護学部看護学科を開設
昭和63年 (1988年)	日本赤十字中央女子短期大学を閉校
平成元年 (1989年)	日本赤十字愛知女子短期大学看護学科を開設 学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校を閉校
平成5年 (1993年)	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成7年 (1995年)	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士課程後期を開設
平成8年 (1996年)	日本赤十字秋田短期大学看護学科・介護福祉学科を開設
平成9年 (1997年)	日本赤十字武蔵野女子短期大学を日本赤十字武蔵野短期大学に改称 日本赤十字愛知女子短期大学を日本赤十字愛知短期大学に改称
平成11年 (1999年)	日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科を開設
平成12年 (2000年)	日本赤十字広島看護大学看護学部看護学科を開設
平成13年 (2001年)	日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科を開設
平成15年 (2003年)	日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成16年 (2004年)	日本赤十字豊田看護大学看護学部看護学科を開設 日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成17年 (2005年)	日本赤十字看護大学と日本赤十字武蔵野短期大学が統合
平成18年 (2006年)	日本赤十字愛知短期大学を閉校
平成19年 (2007年)	日本赤十字武蔵野短期大学を閉校 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成21年 (2009年)	日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科を開設
平成22年 (2010年)	日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成23年 (2011年)	日本赤十字秋田短期大学看護学科を閉校 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成26年 (2014年)	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科共同災害看護学専攻博士課程を開設 (国公立5大学の共同教育課程)
平成28年 (2016年)	日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 (赤十字5大学の共同教育課程)
令和2年 (2020年)	日本赤十字看護大学さいたま看護学部看護学科を開設



福祉を支える多くの人材を育成しています。

学園の組織

令和6年3月31日 現在



教職員の概要

令和5年5月1日 現在

(単位:人)

教授	准教授	講師	助教	助手	事務職	教職員合計
95	71	64	76	18	194	518

役員・評議員一覧

令和6年3月31日 現在

◆理事(13名)

理事長	富田 博樹	令和4年7月就任	日本赤十字社 特別顧問
副理事長	鈴木 俊彦	令和4年7月就任	日本赤十字社 副社長
常務理事	渡部 洋一	令和4年4月就任	日本赤十字社 医療事業推進本部 本部長
	庄野 泰乃	令和3年4月就任	日本赤十字社 医療事業推進本部 副本部長兼看護部長
	鈴木 一寿	令和2年4月就任	学校法人日本赤十字学園 法人本部 事務局長
	鎌倉 やよい	令和3年4月就任	日本赤十字豊田看護大学 学長
理事	原 玲子	令和3年4月就任	日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 学長
	小松 浩子	令和4年4月就任	日本赤十字九州国際看護大学 学長
	根本 とよ子	令和5年4月就任	一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 理事
	矢部 信栄	令和4年7月就任	日本赤十字社全国支部事務局長会 会長 (日本赤十字社東京都支部 事務局長)
	片田 範子	平成30年4月就任	公立大学法人三重県立看護大学 理事長・学長
	久保 公人	平成30年4月就任	学校法人尚美学園 理事長・尚美学園大学 学長
	藤原 誠	令和4年4月就任	東京国立博物館長

◆監事(2名)

監事	竹内 賢治	令和2年4月就任	日本赤十字社 参与
	岡原 宏一	令和2年4月就任	公認会計士岡原事務所

◆評議員(27名)

安酸 史子	日本赤十字北海道看護大学 学長	富田 博樹	日本赤十字社 特別顧問
守田 美奈子	日本赤十字看護大学 学長	鈴木 俊彦	日本赤十字社 副社長
田村 由美	日本赤十字広島看護大学 学長	渡部 洋一	日本赤十字社医療事業推進本部 本部長
佐々木 幾美	日本赤十字看護大学 学部長	庄野 泰乃	日本赤十字社医療事業推進本部 副本部長兼看護部長
志賀 加奈子	日本赤十字北海道看護大学 研究科長	矢部 信栄	日本赤十字社全国支部事務局長会 会長 (日本赤十字社東京都支部 事務局長)
高橋 修	日本赤十字秋田看護大学 事務局長 (兼)日本赤十字秋田短期大学 事務部長	牧野 憲一	日本赤十字社病院長連盟 会長(旭川赤十字病院 院長)
鈴木 一寿	学校法人日本赤十字学園 法人本部 事務局長	岩崎 佳子	赤十字医療施設看護部長会 会長(長岡赤十字病院 看護部長)
金 愛子	元 石巻赤十字病院 副院長兼看護部長	服部 亮市	日本赤十字社 参与
小山 和子	元 鳥取赤十字病院 副院長兼看護部長	井伊 久美子	公益社団法人日本看護協会 副会長 (香川県立保健医療大学 学長)
根本 とよ子	一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 理事	飯野 奈津子	医療福祉ジャーナリスト
田島 恵子	元 深谷赤十字病院 副院長兼看護部長	小野 太一	国立大学法人政策研究大学院大学 教授
中野 玲子	藍野大学 医療保健学部看護学科 特任教授	中島 正治	公益財団法人結核予防会 理事
畠山 悦子	元 長野赤十字病院 看護部長	藤原 誠	東京国立博物館長
望月 律子	元 静岡赤十字病院 副院長兼看護部長		

※役員賠償責任保険契約について

当法人は、理事、監事及び評議員を被保険者とした役員賠償責任保険契約を締結しており、保険料は全額法人が負担しております。

なお、被保険者による違法行為、犯罪行為等に起因する損害等については、填補の対象外としています。

理事会・常務理事会・評議員会の開催状況

理事会	第1回(参集・Web会議) 令和5年5月23日(火) 第3回(参集・Web会議) 令和6年3月19日(火)	第2回(参集・Web会議) 令和5年12月6日(水)
常務理事会	第1回(Web会議) 令和5年4月10日(月) 第3回(Web会議) 令和5年9月5日(火) 第5回(Web会議) 令和5年12月11日(月) 第7回(Web会議) 令和6年3月4日(月)	第2回(Web会議) 令和5年5月10日(水) 第4回(Web会議) 令和5年11月6日(月) 第6回(Web会議) 令和6年2月5日(月)
評議員会	第1回(参集・Web会議) 令和5年5月23日(火) 第3回(参集・Web会議) 令和6年3月19日(火)	第2回(参集・Web会議) 令和5年12月6日(水)

[各大学・短期大学の施設概要]

日本赤十字 北海道看護大学



住所 〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
 電話 0157-66-3311 URL <https://www.rchokkaido-cn.ac.jp/>
 施設面積 校地:59,797m² / 校舎等:16,993m²

日本赤十字 秋田看護大学・秋田短期大学



住所 〒010-1493 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3
 電話 018-829-4000 URL <https://www.rcakita.ac.jp/>
 施設面積 校地:43,599m² / 校舎等:13,771m²

日本赤十字 看護大学 (広尾キャンパス)



住所 〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3
 電話 03-3409-0875 URL <https://www.redcross.ac.jp/>
 施設面積 校地:18,216m² / 校舎等:15,695m²

(大宮キャンパス)



住所 〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区上落合8-7-19
 電話 048-799-2747 URL <https://www.redcross.ac.jp/saitama>
 施設面積 校地:2,704m² / 校舎等:5,361m²

日本赤十字 豊田看護大学



住所 〒471-8565 愛知県豊田市白山町七曲12-33
 電話 0565-36-5111 URL <https://www.rctoyota.ac.jp/>
 施設面積 校地:19,710m² / 校舎等:17,954m²

日本赤十字 広島看護大学



住所 〒738-0052 広島県廿日市市阿品台東1-2
 電話 0829-20-2800 URL <https://www.jrchcn.ac.jp/>
 施設面積 校地:29,882m² / 校舎等:19,438m²

日本赤十字 九州国際看護大学



住所 〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1-1
 電話 0940-35-7001 URL <https://www.jrckicn.ac.jp/>
 施設面積 校地:34,456m² / 校舎等:15,097m²





学校法人日本赤十字学園

[法人本部事務局]

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル西館6階

TEL.03-5472-2836 FAX.03-5472-2837

赤十字学園

検索

